

目 次

◆授業時間、学事・履修日程	2
◆読むガイダンス	
○研究科・専攻、課程、課程の修了要件、セメスター(学期)	3
○授業科目の種類、大正大学ポータルシステム、休講等の取り扱い、欠席事由証明	4
○緊急時における授業の取り扱い	5
◆履修および試験	
○履修	6
○試験	7
○学位・退学	9
○修士論文	10
○研究成果報告書	10
○学位請求論文(課程博士)	14
◆専攻ごとの履修規則	
○仏教専攻	18
○社会福祉学専攻	22
○臨床心理学専攻	24
○人間科学専攻	26
○福祉・臨床心理学専攻	28
○宗教学専攻	29
○史学専攻	32
○国文学専攻	35
○比較文化専攻	37
○大学院研究科共通科目	40
◆教職・諸資格課程	45
◆大正大学大学院学則(抜粋)	50
◆大正大学学位規則(抜粋)	52
◆学位審査に係る不正行為に関する内規	57
◆大学院の人材養成並びに教育研究の目的に関する規程	58
◆課程博士論文提出奨励のための学費等特例措置に係る規程	59
◆各専攻の論文審査基準	61
◆あとがきに代えて 初代学長 澤柳政太郎博士「建学のことばより」	64

授業時間

◎授業時間

①春学期・秋学期

1 時限	2 時限	昼休み	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	7 時限
9:10～10:40	10:50～12:20	12:20～13:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00	18:15～19:45	19:50～21:20

平成29年度 学事・履修日程

春 学 期	平成28年度秋学期成績評価疑問受付期間＜在学生対象＞	3月17日(金)～23日(木)	
	全学健康診断 ＜在学生対象＞	3月28日(火)・29日(水)	
	新入生・在学生ガイダンス	3月25日(土)	
	入学式	4月1日(土)	
	全学健康診断 ＜新入生対象＞	4月6日(木)	
	春学期授業開始	4月7日(金)	
	仏陀会	6月1日(水)	
	集中講義履修登録	6月下旬(詳細は、決まり次第T-Poで配信します)	
	◆授業実施日(海の日)	7月17日(月)	◆授業実施
	春学期授業最終日	7月27日(木)	
	追試験日 ＜該当者のみ対象＞	8月3日(木)	
夏期休暇期間		7月28日(金)～9月22日(金)	
集中講義期間		9月1日(金)～9月22日(金)	
秋 学 期	平成29年度春学期成績評価疑問受付期間	9月5日(火)～8日(金)	
	履修登録	9月13日(水)～(詳細は、決まり次第T-Poで配信します)	
	秋学期授業開始	9月23日(土)	
	学位授与式 ＜9月修了生対象＞	9月27日(水)	
	AO入試、スポーツ特別入試、宗門子弟特別入試、大学院入試	10月14日(土)	*全学休講
	全学休講	10月31日(火)～2日(木)・6日(月)	*全学休講
	大学祭	11月4日(土)・5日(日)	*全学休講
	◆授業実施日(勤労感謝の日)	11月23日(木)	◆授業実施
	全学休講	12月26日(火)	*全学休講
	冬期休暇期間	12月27日(水)～平成30年1月5日(金)	
	大学入試センター試験	平成30年1月13日(土)・14日(日)	*全学休講
	秋学期授業最終日	平成30年1月29日(月)	
	追試験日 ＜該当者のみ対象＞	平成30年2月6日(火)	
	学位授与式	平成30年3月15日(木)	
	平成29年度秋学期成績評価疑問受付	平成30年3月16日(金)～20日(火)	

- ・春学期の履修登録日程・時間については、別紙ガイダンス資料内の「春学期履修登録日程」を参照してください。
- ・各種ガイダンスの日程・時間は、別紙(A3版の「平成29年度 春学期ガイダンス日程」)を参照してください。
- ・◆7月17日、11月23日は国民の祝日ですが、通常どおり授業を実施します。

読むガイド

研究科・専攻・課程

本学大学院の課程は、修士課程および博士課程です。

1. 修士課程の標準修業年限は2年、博士課程の標準修業年限は5年とします。
2. 博士課程は、前期2年および後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を「修士課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」とします。

なお、本学大学院の研究科・専攻・課程は以下のとおりです。

研究科名	専攻名	課程名	
仏教学研究科	仏教専攻	修士課程	博士後期課程
人間学研究科	社会福祉学専攻	修士課程	—
	臨床心理学専攻	修士課程	—
	人間科学専攻	修士課程	—
	福祉・臨床心理学専攻	—	博士後期課程
文学研究科	宗教学専攻	修士課程	博士後期課程
	史学専攻	修士課程	博士後期課程
	国文学専攻	修士課程	博士後期課程
	比較文化専攻	修士課程	博士後期課程

課程の修了要件

修士課程

修士課程の修了要件は、修士課程に2年以上在学し、所定の授業科目について別表に定める単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は研究成果報告書の審査及び最終試験に合格することです。

ただし、在学期間に関して、2009年度以降入学生で優れた研究業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

9月修了について

2010年度以降入学生については次のとおりとします。

2年（4セメスター）以上在学し、修了要件不足として修士論文の審査のみが満たされていない者については、以下の基準により9月に修士の学位が授与されます。

1. 修士論文について

- ①修了できなかった年度に「修士論文の題目」を提出していること。
- ②9月修了を希望する年度に指導教員の「特殊研究（研究指導）」を登録していること。
- ③9月修了を希望する年度の6月までに修士論文に関する要件を具備すること。

2. 手続きについて

9月修了を希望する場合は、その前年度の2月（修学延長希望登録時）に所定の書類でその旨研究科長へ届け出（指導教員の承認印が必要）をすること。教学運営協議会ならびに大学院委員会の議を経て、学長が決定する。

博士課程

博士課程の修了要件は、博士課程に5年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、所定の授業科目について別表に定める単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格することです。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとします。

※ただし書きについては、2009年度以降入学生のみ対象

セメスター(学期)

セメスターとは、半年を1学期として区分する方法であり、本学大学院では修士課程の場合、4月の入学から修了までの期間を4つのセメスターに区切っています（第1セメスター、第2セメスター、第3セメスター、第4セメスター）。前半（1、3セメスター）を春学期、後半（2、4セメスター）を秋学期と称しています。

授業科目の種類

- 必修科目……修了までに必ず履修（単位修得）しなければならない科目。
- 選択科目……指定された複数の科目の中から選択し、所定の単位数を履修（単位修得）（選択必修科目） しなければならない科目。
- 自由科目……指定された科目の中から自由に選択し、履修できる科目。必ずしも履修し（自由選択科目） なくてもよい。
- 通年科目……春学期、秋学期をとおして1年間履修する科目。
（春学期に登録し、成績は秋学期（3月）に認定される科目。）
- 集中講義科目……指定された期間に、集中的に授業を行う科目。

大正大学ポータルシステム

<https://t-po.tais.ac.jp/>
大正大学ポータルシステム【T-Po】は、インターネットが使える環境があれば、各種サービスを利用することができるシステムです。
休講情報や履修に関すること、時間割の変更等、学生に対する伝達事項がT-Poに掲示情報としてアップされます。こまめにT-Poを確認するようにしてください。
掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。掲示内容が理解できない場合には、直接教務部教務課窓口にお問い合わせください。電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

休講等の取り扱い

休 講	T-Po・休講情報で確認してください。 ※休講は担当教員から連絡がありしだい、T-Po・休講情報にアップします。 ただし、担当教員から教務部教務課へ届出がなかった場合は、掲載されません。 また、急病等事前に告知できないときは、授業当日の掲載になる場合があります。 なお、休講等に関する電話での問い合わせは受け付けておりません。 ※諸般の事情により休講が重なり、授業が予定どおりに進行できなくなった場合は、授業開講期間の土曜日や休講の翌週等の授業日の6時限に補講が行われることがあります。いずれの場合も、T-Poで確認をしてください。 QRコード…スマートフォンでインターネットへのアクセス情報が読み取れます。 https://t-po.tais.jp/s/ T-Poに関しては教育開発推進センターにお問い合わせください。	
欠 席	単位認定を受けるには、授業に毎回出席することが原則です。授業出席回数が3分の2に満たない場合は、規定により試験を受けることができません。 なお、急病等によりやむを得ず欠席する場合は、必ず欠席事由を証明するもの（診断書等）を持参し、定期試験期間外は直接担当教員に、定期試験期間中は教務部教務課に届け出てください。 忌引きについては、会葬御礼葉書等を持参して、学生部で忌引きの証明を受けてください。 いずれの場合も、口頭による届け出は受け付けませんので注意してください。	

欠席事由証明

欠席の回数が成績評価に関連する場合があることから、下記に掲げる事由による欠席については、大学がその事由証明を行うことがあります。

学生からの申請により、それぞれの事由に関連する内容を審議のうえ、教務部長または学生部長が証明します。

大学から証明書が交付された場合、学生は証明書に必要事項を記入し、速やかに担当教員に提出してください。

ただし、提出された証明書の取り扱いについては、当該科目の担当教員にゆだねられていますので、担当教員から指示があった場合は、その指示にしたがってください。

内 容	担当部署
各種資格課程の学外学習および僧階に関する各宗派加行・研修	教 務 部
担当教員が引率・指導する大学公認の学外実習	
忌引き（大学で定めた日数）	学 生 部
大学が認めた課外活動	
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録および検査	
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

緊急時における
授業の取り扱い

交通機関の乱れや自然災害等、緊急事態が発生した際の本学の授業の取り扱いについては、以下の表の通りです。

	午前 6 時段階	午前10時段階	午後 2 時段階
交通機関運行中止 (※1)	1・2 限休講	3・4 限休講	5・6・7 限休講
気象警報等 (※2)	1・2 限休講	3・4 限休講	5・6・7 限休講
大規模地震 (※3)	1・2 限休講	3・4・5・6・7 限休講	

- (※1) 首都圏JR、首都圏大手私鉄各社、東京メトロ、都営地下鉄のうち3社が全面的に運行中止の場合。
- (※2) 「暴風警報」「大雪警報」が東京23区東部もしくは西部に発令された場合。
- (※3) 該当時間において、警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合。
- (※4) 路線バス等のバス会社は一般的に遅延証明書の発行を行っておりません。交通機関の乱れが予測される場合は、あらかじめ早く家を出る等の自衛手段をとってください。

上記事態に伴う休講情報は大学ホームページでお知らせされますので、適宜確認してください

履修および試験

履修

科目の履修について

大学院における授業科目の履修方法については、各専攻ごとに学則で定められています。学生のみなさんは、学則に定められたとおりに履修しなければなりません。18頁～39頁に記載されている、各専攻ごとの別表を遵守してください。なお、修士課程に在籍している学生はM、博士後期課程に在籍している学生はDの記号の付されている科目のみを履修することができます。

履修登録

履修登録は全て自己の責任において行うものです。登録間違いなどがないよう、十分に注意してください。

履修登録はT-Po上で行います（特殊研究等の研究指導を除く）。履修登録の日程は学期ごとに指定されており、当該科目の開講される学期ごとに、それぞれ履修登録を行います（通年科目は春学期登録。なお、集中講義の登録日程は別途T-Poでお知らせします）。

履修登録の注意事項

- ・履修登録にあたっては、T-Po等で日程を確認し、定められた期間内に登録を完了してください。登録が完了した際には、時間割を印刷し保管してください。
- ・同じ科目名でも、担当教員（クラス）が複数ある場合があります。履修すべきクラスを確認のうえ登録してください。
- ・やむを得ない事情で定められた期間内に履修登録ができない場合は、事前に教務課へ届け出てください。
- ・大学の規則に反して登録した場合は、全ての登録が無効になります。
- ・一度登録を完了した科目を修正したい場合は、定められた期間内にT-Poにて修正登録を行ってください。定められた期間外で、登録した科目を修正・追加・削除することはできません。

特殊研究
課題研究
研究指導
実践分析研究
事例研究

1年次からの必修であり、修了まで継続的に履修しなければなりません（在学中は必ず履修してください）。また科目の履修にあたっては専攻の指導にしたがってください。ただし、修了要件として認定できる単位数は修士課程8単位・博士後期課程12単位までとします。なお、指導教授および研究テーマの登録は、5月10日(水)までに所属する研究室で行ってください。ただし、実際の研究指導は、4月上旬より始まるので、研究室でよく確認してください。

大学院研究科 共通科目 (他専攻聴講科目) 他専攻聴講許可願	修得単位は修了単位として認定します(40頁参照)。 ただし、在学中に修得できる単位数は8単位を上限とします。この共通科目については所定の用紙(大学院他専攻聴講許可願)を授業担当教員に提出する必要はありません。 大学院研究科共通科目以外の他専攻開講科目(各自の研究内容に関連する授業で、自分の所属する学則別表に記載のない科目)の履修を希望する者は、指導教授および授業担当教員が特別に許可した場合にのみ、受講できます。所定の用紙(大学院他専攻聴講許可願)がありますので履修登録期間内に教務部教務課窓口に取りにきてください。なお、大学院研究科共通科目および自分の所属する学則別表に記載のある科目を含めて修得できる単位数は、在学中8単位を限度とします。
講義概要(シラバス)	講義概要(シラバス)についてはT-Poにて参照が可能です。履修登録、授業を受講する際に活用してください。
研究指導経過 報告書	特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究を履修している学生は、研究指導経過報告書を提出しなければなりません。別途提出方法、書式等はT-Poにてご連絡いたします。
試 験	履修科目の単位は、原則として試験の成績評価によって認定されます。 試験は下記の3種類となります。
試験の種類	定期試験……授業最終週の授業時間の内で試験を実施します。 追 試 験……やむを得ない理由により定期試験に出席できなかった場合に行うことがあります。
試験日の変更	交通機関のストライキ等による運行中止および台風等災害発生により試験を実施できなかった場合は、原則として試験期間最終日の翌日に実施しますが、詳細はT-Poにて確認してください。
受験資格	以下に該当する学生は、受験資格がないものとします。 ①当該学期の履修登録をしていない者。 ②授業出席回数が3分の2に満たない者。 ③学費を指定期間内に納入していない者。 ④休学および停学中の者。 ⑤学生証を携帯していない者(仮学生証の交付を受ければ受験可)。

レポート

定期試験等にかえて、レポートにより成績の評価をする場合があります。
郵送を指定されている場合は、事前に宛先を担当教員に確認し、封書に「レポート在中」と朱書きして送付してください。
なお、事務局では理由の如何に関わらず、教員の住所・電話番号を教えることはできませんので注意してください。

不正行為

試験場において次の行為があった場合は、大学院学則第69条ならびに大正大学試験規程第8条により処分されます。

- ①試験場において監督者の指示にしたがわないとき。
- ②当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たと認められるとき。
- ③他人の学生証または本学の学生証以外で受験したとき。
- ④当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき。

※以上の不正行為を認めたときは、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収したうえ、退場を命じます。

※③および④による不正の場合は、当該受験者に不正の教唆または、学生証の貸与を行った者も処分の対象とします。

単位の認定

単位認定の基準は、次のとおりとします。

本学においては、1単位は標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成するものとし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として次のとおりとします。

- ①講義および演習については、15時間の授業をもって1単位とします。
- ②実験、実習および実技については、30時間の授業をもって1単位とします。

単位認定の時期

単位認定の時期は、以下のとおりとします。

- ①春学期開講科目は、9月15日とします。ただし、他大学単位互換科目については3月15日とします。
- ②春学期以外の開講科目(通年・秋学期・夏期休暇・冬期休暇)については、3月15日とします。

学業の評価

学業の評価は当該教科の担当教員が行うものであり、試験・レポート・授業への取り組み等を総合的に勘案して評価されます。

より適正な成績評価をするため、下記のとおり評価を細分化しています。

評価	判 定		基 準
A A	合格（最優秀）	A A	極めて優秀な成績
A ⁺	合格（優秀）	A	優秀な成績
A			
A ⁻			
B ⁺	合格（良）	B	受講生の中で平均的な成績
B			
B ⁻			
C ⁺	合格（可）	C	平均より劣るが、合格に値する成績
C			
D	不合格（不可）	D	合格に達しない
Z	不合格（否）	Z	評価不能
T		T	本学の授業科目における合格判定(上記A AからCを除く)および他大学大学院等による単位認定

成績通知表は、評価欄の評語を用います。また、成績証明書には判定欄の評語を使用します。

学位・退学

学位

- (1) 修士課程 各専攻ごとに定める修了のための要件を満たした場合は、以下の学位を授与します。

研究科名	専攻名	修士課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	修士（仏教学）
人間学研究科	社会福祉学専攻	修士（社会福祉学）
	臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）
	人間科学専攻	修士（人間科学）
文学研究科	宗教学専攻	修士（文学）
	史学専攻	修士（文学）
	国文学専攻	修士（文学）
	比較文化専攻	修士（文学）

- (2) 博士後期課程 各専攻ごとに定める修了のための要件を満たした場合は、以下の学位を授与します。

研究科名	専攻名	博士後期課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	博士（仏教学）
人間学研究科	福祉・臨床心理学専攻	博士（人間学）
文学研究科	宗教学専攻	博士（文学）
	史学専攻	博士（文学）
	国文学専攻	博士（文学）
	比較文化専攻	博士（文学）

除籍・退学

- (1) 修士課程 修士課程に4年間在学し、修了の要件を満たさない場合は、大学院研究科委員会の議を経て除籍となります。ただし、退学届が提出された場合は退学扱いとなります。
- (2) 博士後期課程 博士後期課程に6年間在学し、修了の要件を満たさない場合は、大学院研究科委員会の議を経て除籍となります。
- なお、3年以上在学し、所定の単位を修得見込みの者は、単位修得者として当該年度の1月中に、指導教授を通じて退学希望を出すことができます。その場合、学生部で行う通常の退学手続きは取らないようにしてください。

修 士 論 文

全専攻

- (1) 論 題 の 提 出
- 修士論文を提出するためには、1年次より必要な研究指導を受けたうえ、指導教授の許可を得て指定された期間に論題を提出しなければなりません。論題は、副題を含め60字以内にまとめてください。
また、論題の変更は（副題を追加する場合を含む）、指定された期間に研究室をとおして行ってください。提出された論文と、届け出ている論題に相違があった場合は、当該論文を受け付けないので注意してください。一字一句相違のないようにしてください。
- (2) 論 文 の 体 裁
- 論文の枚数、体裁については、次頁の表のとおりとします。ただし、詳細は各研究室の指導によります。
- (3) 論文提出カード
- 指定期間に指導教授をとおして、論文提出カードを配付します。カードを受け取ったら必要事項を記入し、指導教授に内容・体裁等の確認を依頼し、署名・捺印をもらってください。修士提出時、論文と一緒に持参してください。
- (4) 論 文 審 査 料
- 論文の提出時に教務部教務課窓口で論文の体裁等を確認後、窓口の指示にしたがって審査料2万円を納入してください。審査料の納入がない場合は、論文を受理できません。

研究成果報告書

社会福祉学専攻

- (1) 研 究 テ ー マ の 提 出
- 社会福祉学専攻は、修士論文にかえて研究成果報告書を提出することができます。そのためには、1年次より必要な研究指導を受けたうえ、指導教授の許可を得て指定された期間に研究テーマを提出しなければなりません。研究テーマは、副題を含め60字以内にまとめてください。
また、研究テーマの変更は、修士論文の論題変更方法に準じます。
- (2) 成 果 報 告 書 の 体 裁
- 成果報告書の体裁は特に定めませんが、必ず指導教授の指示にしたがい、審査に耐えうるものとして体裁を整えてください。
なお、複数人による合同研究の場合は、各自の分担部分のみを提出してください。
- (3) 成果報告書提出カード
- 修士論文提出カードの受け取り方法に準じます。
- (4) 成 果 報 告 書 審 査 料
- 論文審査料納入方法に準じます。

提出期限
（6月提出）

平成29年度の修士論文および研究成果報告書提出にかかわる各種提出物の提出期限は、下記のとおりです。各締切日の午後5時をもって一切の提出を受け付けませんので、時間に余裕をもって提出できるように心掛けてください。

	内 容	期 間	提出・受け取り場所
9月修了対象者 （6月提出）	論 題 変 更 締 切 研 究 テ ー マ 変 更 締 切	5月10日（水）	所属する研究室
	論文提出カード受け取り 成果報告書提出カード受け取り	6月14日（水）以降	指導教授
	論 文 提 出 成 果 報 告 書 提 出	6月20日（火）～6月30日（金） 午後5時	教務部教務課窓口

※9月修了対象の条件については3頁の課程の修了要件を参照。

提出期限
(12月提出)

	内 容	期 間	提出・受け取り場所
3月修了対象者 (12月提出)	論 題 提 出 研 究 テ ー マ 提 出	5月10日(水)	所属する研究室
	論 題 変 更 締 切 研 究 テ ー マ 変 更 締 切	10月6日(金)	所属する研究室
	論文提出カード受け取り 成果報告書提出カード受け取り	11月24日(金)以降	指導教授
	論 文 提 出 成 果 報 告 書 提 出	12月1日(金)～12月15日(金) 午後5時	教務部教務課窓口

修士論文の規定枚数

修士論文の規定枚数は以下のとおりとします。
なお、手書きの場合、1頁の3分の2以上記入のあるものを1枚とし、ワープロの場合は、1頁に30行以上記入のあるものを1枚とします。

	手 書 き	ワープロ
表紙、目次	規定枚数に含まない	
序論、本論、結論	100枚以上	25枚以上
注 釈 [*]	規定枚数に含む	
参 考 文 献	規定枚数に含まない	

※1頁ごとの脚注は使用しないでください。

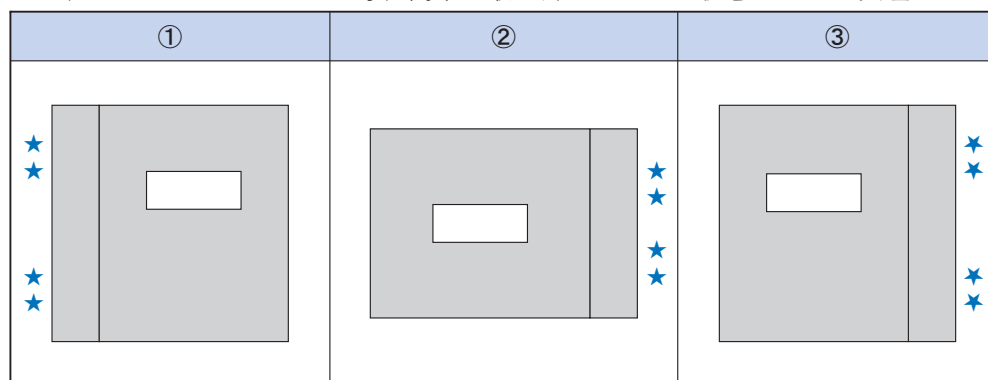
修士論文の体裁・装丁

修士論文の体裁・装丁は、下表のとおりとします。また、修士論文には必ず表紙を付け、所定の位置に「論文提出カード」を貼り付けてください。

・手書き：鉛筆不可 ・ワープロ：感熱紙不可	原稿用紙 サ イ ズ	字詰め	書式	綴じ位置
手書き：日 本 語	B 4	400字	縦書き	例③（2つ折り）
ワープロ：英 語	A 4	主査の指示	横書き	例①
ワープロ：日 本 語	A 4	40字×40行	横書き	例①
ワープロ：日 本 語	A 4	40字×40行	縦書き	例②

綴じ位置

★印の位置で綴じること。特に紐綴じの場合は、必ず中綴じしたうえ、4穴で綴じてください。また、ファイルやバインダー等、簡単に取り外しのできる状態のものは受理しません。



修士論文および 研究成果報告書の データについて

後学の育成強化および盗用防止などの観点から、修士論文・研究成果報告書のデータも提出することとなりました。

下記詳細で提出形式などを確認して、修士論文・研究成果報告書提出と同時にCD-RもしくはDVD-Rに焼き付けて提出してください。

- ①修士論文(現物)の提出と同時にデータファイルを提出すること
- ②提出された紙媒体と同一のものとする
- ③データファイルを、CD-RもしくはDVD-Rに焼き付けて提出すること（ケース表面およびディスク表面に、学籍番号、氏名、専攻、修士論文（研究成果報告書）タイトルを明記すること）
- ④ファイル名は「学籍番号、専攻、氏名、修士論文（研究成果報告書）」とすること
- ⑤提出形式（専攻毎に異なります。必ず確認してください。10月中旬にT-Poにてご案内します。）

仏教学専攻…PDFのみ

社会福祉学専攻…Wordのみ

臨床心理学専攻…PDFのみ

人間科学専攻…Wordのみ

宗教学専攻…PDFのみ

史学専攻…Word、一太郎、PDF（図、表）のみ

※修士論文本文に綴じ込みの図、表などは原則としてPDFデータとして提出。

国文学専攻…指定なし

比較文化専攻…Word、PDFのみ

※平成28年度実績

修士論文および 研究成果報告書の 提出手順

修士論文の提出は、下記の手順で行ってください。

なお、研究成果報告書を提出する場合は、下記「修士論文」を「研究成果報告書」と読みかえてください。

- ①「修士論文提出カード」を指導教授（主査）より受け取る。〈11月24日（金）以降〉
- ②「修士論文提出カード」に必要事項を記入する。〈下記「記入例」参照〉
- ③修士論文の内容および体裁等を、指導教授（主査）に確認してもらう。
- ④内容確認後、カード（A票）の所定欄に指導教授（主査）の署名・捺印をもらう。
- ⑤論文提出期間内に修士論文と「修士論文提出カード」を教務部教務課窓口へ提出する。
- ⑥教務部教務課窓口で論文の体裁・装丁の確認を受ける。
- ⑦「修士論文提出カード」を（A票）と（B票）を切り離し、論文の表紙に貼る。
- ⑧1号館1階の証明書発行機にて修士論文審査料（2万円）の「申込書〔兼納付証〕」を購入する。
- ⑨購入後、「申込書〔兼納付証〕」とともに、再度教務部教務課窓口へ提出する。
- ⑩「修士論文受領書」（B票）を受け取り、各自保管する。

記入例

A 票	平成29年度 修士論文提出カード	
	受付番号	←何も記入しないでください
	仏教学研究科 仏教学専攻（ ） 修士課程	
	論 題 不動明王の研究	
学籍番号 1403321 氏 名 田 中 海 秀		
この修士論文は、その内容及び履修要項に定められた体裁・装丁(枚数・字数を含む)について、提出に値するものと最終的に確認しました。 平成 年 月 日 指導教授 (印)		
-----キリトリセン-----		
B 票	受付番号	←何も記入しないでください
	修士論文受領書	
	学籍番号 1403321 氏 名 田 中 海 秀	
	修士論文を受領しました。 平成 年 月 日 大正大学 教務部教務課 (印)	

← 修士論文の表紙に貼付

← 指導教授(主査)の署名・捺印

← B票日付欄には何も記入しないでください

提出時の注意

下記の場合は、修士論文を受領しないので注意してください。

- ①鉛筆書きの場合。
- ②用紙が感熱紙である場合。
- ③頁数が記入されていない場合。
- ④原稿用紙1枚の字詰めが指定された字詰めでない場合。
- ⑤規定枚数に満たない場合。
- ⑥指定された装丁がなされていない場合。
- ⑦「修士論文提出カード」に指導教授（主査）の署名・承認印（捺印）がない場合。
- ⑧その他規定を満たしていない場合。

学位請求論文
（課程博士）

- (1) 学位請求資格 課程博士の学位を請求する資格のある者は、以下のとおりです。
 ①本学大学院研究科博士後期課程3年次に在学している者。
 ②博士課程単位取得満期退学した後、博士後期課程入学後6年以内に再入学した者。
 ③2009年度以降入学生で、博士後期課程に在学し、優れた研究業績を上げた者として、当該研究科委員会で認めた場合。
- (2) 論題の登録 論文の提出には論題の登録が必要です。学位請求論文の論題は副題を含め60字以内にまとめてください。学位請求論文審査申請書の提出をもって論題の登録となります。
登録している論題と提出された論文の論題に相違があった場合は、論文を受けつけません。
- (3) 論文の提出と予備審査 指定された期日までに、学位請求論文（簡易製本）4部と論文要旨4部を教務課窓口へ提出してください。
提出後、予備審査をへて、論文審査へうつります。
- (4) 論文審査料 論文審査へ移行するに際して、指示された期日までに審査料5万円を納入してください。
- (5) 公開口述試験 学位請求論文の口述試験を公開で開催します。
- (6) 論文審査終了後 学位請求論文（本製本1部）と論文要旨1部、またそれぞれのデータ（PDF）を指定された期間内に提出してください。

学位授与までの
流れ

時期	事 項
5月上旬	学位請求論文審査申請書（※1）提出
10月中旬	学位請求論文（簡易製本4部）学位請求論文要旨（4部）提出
11月下旬	予備審査
1月上旬	学位請求論文再提出（予備審査で指導があった者のみ）
1月中旬	審査料納入
2月上旬	公開口述試験
2月下旬	学位請求論文（上製本1部）、論文要旨（1部）、学位請求論文及び論文要旨のデータ提出
3月中旬	学位授与

※1 書式は4月上旬にT-Poに掲載致します。

※2 各時期の詳細については、別途T-Poでお知らせいたします。

学位請求論文
（課程博士）の
規定枚数

学位請求論文（課程博士）の規定枚数は、以下のとおりとします。1頁に30行以上記入のあるものを1枚とします。

表紙・目次	規定枚数に含まない
序論、本論、結論	75枚以上（400字詰原稿用紙300枚分以上）
注釈*	規定枚数に含む
参考文献	規定枚数に含まない

* 1頁ごとの脚注は使用しないでください。

論文要旨について

論文要旨の書式規程枚数については、指導教授の指示にしたがってください。A4判40字×40行を5枚（400字詰原稿用紙20枚）を目安とします。

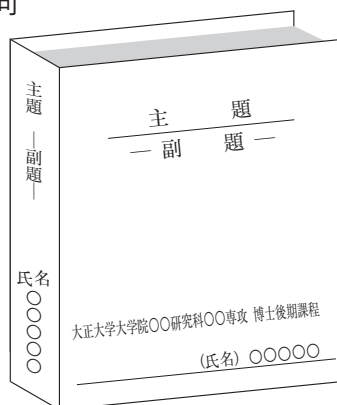
学位請求論文
（課程博士）の
体裁・装丁

学位請求論文（課程博士）の体裁は、下表のとおりとします。装丁例を参考に1部を本製本（上製本）し、表紙・背表紙ともに論文題目、氏名等を入れてください。残り3部は簡易製本可とします。

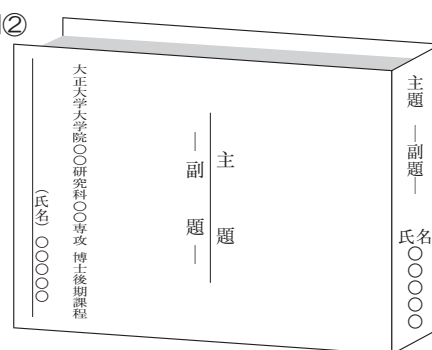
文章形態	用紙サイズ	字詰め	書式	装丁
和文	A4	40字×40行	横書き	装丁例①
英文	A4	指導教授の指示による	横書き	装丁例①
和文	A4	40字×40行	縦書き	装丁例②

※感熱紙は不可

装丁例①



装丁例②



仏
教
学
専
攻

社
会
福
祉
学
専
攻

臨
床
心
理
学
専
攻

人
間
科
学
専
攻

福
祉
・
臨
床
心
理
学
専
攻

宗
教
学
専
攻

史
学
専
攻

国
文
学
専
攻

比
較
文
化
専
攻

大
学
院
研
究
科
共
通
科
目

専攻ごとの履修規則

仏教学専攻

仏教学専攻

本専攻は修士課程と博士後期課程とにわかれており、修士課程2年・博士後期課程3年に区分する。研究内容により9つの分野に分かれるが、科目の履修方法については指導教授の指示にしたがうこと。

- ①仏教学 ②印度哲学 ③梵文学 ④仏教文化学 ⑤応用仏教 ⑥天台学 ⑦真言学
⑧密教学 ⑨浄土学

科目の履修方法

- (1) **修士課程** 各自の研究分野にしたいが、講義22単位以上、課題研究8単位、合計30単位以上を修得するものとする。ただし、仏教学特論計8単位および、仏教史特論Aから仏教実践学特論Bまでのうち、4単位を選択必修とする。
- (2) **博士後期課程** 研究指導12単位を修得するものとする。

仏教系四大学 学生交流協定

本学仏教学専攻では、仏教系大学（駒澤大学、立正大学、東洋大学）と学生交流協定を締結している。履修できる科目は、修士課程仏教学専攻の分野で開設している科目のうち、年間2科目までとし、認定単位数は、修士課程にあつては、2科目8単位を限度とする。博士後期課程にあつては、研究指導の一部として扱うものとする。所定の試験に合格すれば単位を認定する。募集は毎年4月初旬に本学教務部教務課にて行う。なお、履修するためには1科目あたり3,000円の履修料が必要となる。また、認定された単位は、自由選択科目の単位として充当することができる。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

仏教学専攻別表(修士)

学期	科 目 名		単位	担当教員	備 考	修士課程
春	M	仏教学特論 A	2	野 口 圭 也		8 単位 選択必修
春	M	仏教学特論 A	2	元 山 公 寿		
春	M	仏教学特論 A	2	渡 辺 章 悟		
秋	M	仏教学特論 B	2	野 口 圭 也		
秋	M	仏教学特論 B	2	元 山 公 寿		
秋	M	仏教学特論 B	2	渡 辺 章 悟		
春	M	仏教学特論 C	2	佐久間 秀 範		
春	M	仏教学特論 C	2	勝 野 隆 広	研究倫理教育を含む。2科目4単位履修すること。	
春	M	仏教学特論 C	2	野 口 圭 也		
秋	M	仏教学特論 D	2	勝 野 隆 広		
秋	M	仏教学特論 D	2	野 口 圭 也		
秋	M	仏教学特論 D	2	佐久間 秀 範		
春	M	仏教史特論 A(インド)	2	三 代 舞		4 単位 選択必修
秋	M	仏教史特論 B(インド)	2	三 代 舞		
春	M	仏教史特論 C(中国)	2	柴 田 泰 山		
秋	M	仏教史特論 D(中国)	2	柴 田 泰 山		
春	M	仏教史特論 E(日本)	2	苦米地 誠 一		
秋	M	仏教史特論 F(日本)	2	苦米地 誠 一		
春	M	大乘仏教思想特論 A	2	野 口 圭 也		
秋	M	大乘仏教思想特論 B	2	野 口 圭 也		
	M	大乘仏教思想特論 C	2		休講	
	M	大乘仏教思想特論 D	2		休講	
春	M	仏教文献特論 A	2	西 村 実 則		
秋	M	仏教文献特論 B	2	西 村 実 則		
春	M	仏教文献特論 C	2	木 村 周 誠		
秋	M	仏教文献特論 D	2	木 村 周 誠		
春	M	インド哲学特論 A	2	種 村 隆 元		
	M	インド哲学特論 A	2		休講	
秋	M	インド哲学特論 B	2	種 村 隆 元		
	M	インド哲学特論 B	2		休講	
春	M	梵文学特論 A	2	種 村 隆 元		
秋	M	梵文学特論 B	2	種 村 隆 元		
春	M	仏教文化特論 A	2	野 口 圭 也		
秋	M	仏教文化特論 B	2	野 口 圭 也		
春	M	仏教美術史特論 A	2	副 島 弘 道	史学開講科目	
秋	M	仏教美術史特論 B	2	副 島 弘 道	史学開講科目	
	M	仏教実践学特論 A	2		休講	
	M	仏教実践学特論 A	2		休講	
	M	仏教実践学特論 B	2		休講	
	M	仏教実践学特論 B	2		休講	

学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	修士課程
春	M 応用仏教学特論A	2	神 達 知 純		自由選択科目
秋	M 応用仏教学特論B	2	神 達 知 純		
春	M 天台学特論A	2	塩 入 法 道		
秋	M 天台学特論B	2	塩 入 法 道		
春	M 天台学特論C	2	塩 入 法 道		
秋	M 天台学特論D	2	塩 入 法 道		
春	M 天台教理史特論A	2	水 上 文 義		
秋	M 天台教理史特論B	2	水 上 文 義		
春	M 応用天台学特論A	2	勝 野 隆 広		
秋	M 応用天台学特論B	2	勝 野 隆 広		
	M 真言学特論A	2		休講	
	M 真言学特論B	2		休講	
春	M 真言学特論A	2	苫米地 誠 一		
秋	M 真言学特論B	2	苫米地 誠 一		
春	M 真言学特論C	2	大 塚 伸 夫		
秋	M 真言学特論D	2	大 塚 伸 夫		
春	M 真言教理史特論A	2	苫米地 誠 一		
秋	M 真言教理史特論B	2	苫米地 誠 一		
春	M 密教学特論A	2	木 村 秀 明		
秋	M 密教学特論B	2	木 村 秀 明		
春	M 応用真言学特論A	2	元 山 公 寿		
秋	M 応用真言学特論B	2	元 山 公 寿		
春	M 応用真言学特論C	2	堀 内 規 之		
秋	M 応用真言学特論D	2	堀 内 規 之		
春	M 浄土学特論A	2	林 田 康 順		
秋	M 浄土学特論B	2	林 田 康 順		
春	M 浄土学特論C	2	西 村 実 則		
春	M 浄土学特論C	2	曾 根 宣 雄		
秋	M 浄土学特論D	2	西 村 実 則		
秋	M 浄土学特論D	2	曾 根 宣 雄		
春	M 浄土教理史特論A	2	林 田 康 順		
秋	M 浄土教理史特論B	2	林 田 康 順		
春	M 応用浄土学特論A	2	曾 根 宣 雄		
秋	M 応用浄土学特論B	2	曾 根 宣 雄		
春	M 人間学特論A	2	内 藤 いづみ		
秋	M 人間学特論B	2	内 藤 いづみ		
通	M 仏教学課題研究	4	個別の履修指導により指導教員を決定する。		2年にわたり8単位必修

※修士課程については、講義科目22単位以上、課題研究8単位、合計30単位以上修得すること。

仏教学専攻別表(博士)

学期	科 目 名		単位	担当教員	備 考	博士後期課程
春	D	仏教学特論 A	2	渡 辺 章 悟		自由選択科目
秋	D	仏教学特論 B	2	渡 辺 章 悟		
春	D	仏教学特論 C	2	佐久間 秀 範		
春	D	仏教学特論 C	2	勝 野 隆 広	研究倫理教育を含む。2科目4単位履修すること。	
春	D	仏教学特論 C	2	野 口 圭 也		
秋	D	仏教学特論 D	2	勝 野 隆 広		
秋	D	仏教学特論 D	2	野 口 圭 也		
秋	D	仏教学特論 D	2	佐久間 秀 範		
春	D	大乘仏教思想特論 A	2	野 口 圭 也		
秋	D	大乘仏教思想特論 B	2	野 口 圭 也		
	D	大乘仏教思想特論 C	2		休講	
	D	大乘仏教思想特論 D	2		休講	
春	D	仏教文献特論 A	2	西 村 実 則		
秋	D	仏教文献特論 B	2	西 村 実 則		
春	D	インド哲学特論 A	2	種 村 隆 元		
秋	D	インド哲学特論 B	2	種 村 隆 元		
春	D	梵文学特論 A	2	種 村 隆 元		
秋	D	梵文学特論 B	2	種 村 隆 元		
春	D	仏教文化特論 A	2	野 口 圭 也		
秋	D	仏教文化特論 B	2	野 口 圭 也		
春	D	仏教美術史特論 A	2	副 島 弘 道	史学開講科目	
秋	D	仏教美術史特論 B	2	副 島 弘 道	史学開講科目	
春	D	天台学特論 A	2	塩 入 法 道		
秋	D	天台学特論 B	2	塩 入 法 道		
春	D	天台学特論 C	2	塩 入 法 道		
秋	D	天台学特論 D	2	塩 入 法 道		
春	D	真言学特論 A	2	苔米地 誠 一		
秋	D	真言学特論 B	2	苔米地 誠 一		
春	D	真言学特論 C	2	大 塚 伸 夫		
秋	D	真言学特論 D	2	大 塚 伸 夫		
春	D	密教学特論 A	2	木 村 秀 明		
秋	D	密教学特論 B	2	木 村 秀 明		
春	D	浄土学特論 A	2	林 田 康 順		
秋	D	浄土学特論 B	2	林 田 康 順		
春	D	浄土学特論 C	2	西 村 実 則		
春	D	浄土学特論 C	2	曾 根 宣 雄		
秋	D	浄土学特論 D	2	西 村 実 則		
秋	D	浄土学特論 D	2	曾 根 宣 雄		
通	D	仏教学研究指導	4	個別の履修指導により指導教員を決定する。		3年にわたり12単位必修

※博士後期課程については、研究指導12単位修得すること。

社会福祉学専攻

社会福祉学専攻

本専攻は、対人援助のスーパーバイザー、地域ケアのコーディネーター、運営・管理能力を持つ福祉機関・施設の指導者、および我が国の福祉文化を踏まえた社会福祉実践者の育成を基本的な教育方針としている。なお、本専攻の博士後期課程である、福祉・臨床心理学専攻は27頁を参照すること。

研究指導の方法と学位の授与

修士論文・研究成果報告書による学位授与を希望する者は、指導教授の指示により体系的に科目を履修し、1年次から修了まで一貫した研究指導（特殊研究・実践分析研究）を受けて論文を作成すること。

基礎科目

仏教ソーシャルワーク研究2単位、ソーシャルワーク研究法Ⅰ2単位、ソーシャルワーク研究法Ⅱ2単位、計3科目6単位必修。

分野科目

16単位以上選択必修とする。科目の選択については、研究テーマごとに指導があるので、必ず指導教授の指示にしたがうこと。

大学院委託聴講生

本学では、上智大学・明治学院大学・日本女子大学・東洋大学・淑徳大学・日本社会事業大学・立正大学・ルーテル学院大学・立教大学・関東学院大学・法政大学の11大学の社会福祉学専攻課程または社会福祉学専門科目をおく専攻課程と「大学院委託聴講生に関する協定」を締結している。協定校で修得できる単位は、在学中10単位を限度とし、修了に必要な分野科目の単位（実践分析研究、特殊研究を除く）として認定する。大学院委託聴講生の募集は、毎年4月初旬に研究室を通じて行う。

なお、履修するためには、1単位あたり500円の履修料が必要となる。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

社会福祉学専攻別表(修士)

科目区分	学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	修士課程
基礎科目		M 仏教福祉研究	2		休講	3科目6単位必修
	春	M 仏教ソーシャルワーク研究	2	石 川 到 覚		
		M ソーシャルワーク研究法	2		休講	
	春	M ソーシャルワーク研究法Ⅰ	2	沖 倉 智 美 ほか	研究倫理教育を含む	
		M データ分析法	2		休講	
	集中	M ソーシャルワーク研究法Ⅱ	2	鈴木孝典・坂本智代枝		
分野科目		M 社会福祉政策研究	2		休講	16単位以上選択必修
	秋	M 子ども家庭福祉研究	2	高 橋 一 弘		
	秋	M 障害者福祉研究	2	沖 倉 智 美		
	秋	M 高齢者福祉研究	2	宮 崎 牧 子		
	春	M 地域福祉研究	2	神 山 裕 美		
	秋	M 精神保健福祉研究	2	坂 本 智代枝		
	春	M 医療福祉研究	2	新 保 祐 光		
	秋	M 国際福祉研究	2	金 潔		
		M スーパービジョン演習	2		休講	
	春	M スーパービジョン演習Ⅰ	2	坂本智代枝ほか		
		M スーパービジョン演習	2		休講	
	秋	M スーパービジョン演習Ⅱ	2	神 山 裕 美 ほか		
		M 多変量解析法	2		休講	
		M 社会福祉調査研究	2		休講	
	春	M 人間学特論A	2	内 藤 いづみ		
	秋	M 人間学特論B	2	内 藤 いづみ		
	通	M 社会福祉実践分析研究Ⅰ	4	個別の履修指導により指導教員を決定する。		8単位選択必修
	通	M 社会福祉実践分析研究Ⅱ	4			
	通	M 社会福祉学特殊研究Ⅰ	4			
	通	M 社会福祉学特殊研究Ⅱ	4			

※合計30単位以上修得すること。

臨床心理学専攻

臨床心理学専攻

本専攻は、学部教育で学んだ方法・技術をさらに深めようとする学生と、現にカウンセラーなどの職に従事している専門家の再教育を目的としている。さらに、本学の基本理念でもある仏教情操の涵養を基本テーマとして、人間教育のあり方もあわせて探究する。
本専攻の博士後期課程である福祉・臨床心理学専攻は27頁を参照すること。

基礎科目

臨床心理学特論 4 単位、臨床心理学査定特論 4 単位、臨床心理面接特論 4 単位、臨床倫理特論 2 単位、臨床心理基礎実習 2 単位、臨床心理実習 2 単位の計18単位を必修とする。

分野科目

2 科目 4 単位以上選択必修とする。

臨床心理士

「臨床心理士」の受験資格を得ようとする者は、以下の科目表にしたがって履修すること。

	認定協会指定科目	単位	本学開講科目	単位	備考
必修科目	臨床心理学特論	4	臨床心理学特論 A 臨床心理学特論 B	2 2	必修
	臨床心理査定演習	4	臨床心理学査定特論 A 臨床心理学査定特論 B	2 2	
	臨床心理面接特論	4	臨床心理面接特論 A 臨床心理面接特論 B	2 2	
	臨床心理基礎実習	2	臨床心理基礎実習 A 臨床心理基礎実習 B	1 1	2 単位選択必修
	臨床心理実習	2	臨床心理実習 A 臨床心理実習 B	1 1	2 単位選択必修
選択必修科目	(A 群)	2	臨床心理学研究法特論 心理学研究法特論	2 2	A 群から E 群の各群よりそれぞれ 2 単位以上修得すること。
	(B 群)	2	人格心理学特論 発達心理学特論 異常心理学特論	2 2 2	
	(C 群)	2	集団力学特論 家族心理学特論 関係法規特論	2 2 2	
	(D 群)	2	精神医学特論 障害者（児）心理学特論 神経心理学特論	2 2 2	
	(E 群)	2	学校臨床心理学特論 地域援助特論 グループアプローチ特論	2 2 2	

※上記必修科目16単位、選択必修科目群（A、B、C、D、E）からそれぞれ2単位以上、合計26単位以上を修得し、かつ修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。前述の条件を満たして本専攻修士課程を修了することが「臨床心理士」資格認定試験の受験資格を得る条件である。なお、2000年度入学生より、心理臨床経験の条件が変更され、修了と同時に受験資格を取得することができる。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

臨床心理学専攻別表(修士)

科目区分	学期	科目名	単位	担当教員	備考	修士課程
基礎科目	春	M 臨床心理学特論 A	2	井 潤 知 美		14単位必修
	秋	M 臨床心理学特論 B	2	玉 井 邦 夫		
	春	M 臨床心理学査定特論 A	2	伊 藤 直 文		
	秋	M 臨床心理学査定特論 B	2	森 岡 由起子		
	春	M 臨床心理面接特論 A	2	日 笠 摩 子		
	春	M 臨床心理面接特論 B	2	伊 藤 直 文		
	春	M 臨床倫理特論	2	日 笠 摩 子	研究倫理教育を含む	2科目2単位 選択必修
	春	M 臨床心理基礎実習 A	1	森 岡 由起子	1年次履修科目	
	秋	M 臨床心理基礎実習 B	1	森 岡 由起子	1年次履修科目	
	春	M 臨床心理基礎実習 A	1	日 笠 摩 子	1年次履修科目	
	秋	M 臨床心理基礎実習 B	1	日 笠 摩 子	1年次履修科目	
	春	M 臨床心理基礎実習 A	1	井 潤 知 美	1年次履修科目	
	秋	M 臨床心理基礎実習 B	1	井 潤 知 美	1年次履修科目	
	春	M 臨床心理基礎実習 A	1	青 木 聡	1年次履修科目	
	秋	M 臨床心理基礎実習 B	1	青 木 聡	1年次履修科目	
	春	M 臨床心理基礎実習 A	1	伊 藤 直 文	1年次履修科目	
	秋	M 臨床心理基礎実習 B	1	伊 藤 直 文	1年次履修科目	2科目2単位 選択必修
	春	M 臨床心理実習 A	1	森 岡 由起子	2年次履修科目	
	秋	M 臨床心理実習 B	1	森 岡 由起子	2年次履修科目	
	春	M 臨床心理実習 A	1	日 笠 摩 子	2年次履修科目	
	秋	M 臨床心理実習 B	1	日 笠 摩 子	2年次履修科目	
	春	M 臨床心理実習 A	1	井 潤 知 美	2年次履修科目	
	秋	M 臨床心理実習 B	1	井 潤 知 美	2年次履修科目	
	春	M 臨床心理実習 A	1	青 木 聡	2年次履修科目	
	秋	M 臨床心理実習 B	1	青 木 聡	2年次履修科目	
	春	M 臨床心理実習 A	1	伊 藤 直 文	2年次履修科目	2科目4単位以上 選択必修
	秋	M 臨床心理実習 B	1	伊 藤 直 文	2年次履修科目	
分野科目	秋	M 臨床心理学事例演習 I	2	森 岡 由起子		
	春	M 臨床心理学事例演習 II	2	森 岡 由起子		
	春	M 臨床心理学専門特論 A	2	原 田 誠 一		
		M 臨床心理学専門特論 B	2		休講	
	秋	M 臨床心理学研究法特論	2	能 智 正 博		
	春	M 心理学研究法特論	2	青 木 聡		
	秋	M 人格心理学特論	2	森 岡 由起子		
		M 発達心理学特論	2		休講	
	春	M 精神医学特論	2	内 山 登紀夫		
		M 神経心理学特論	2		休講	
		M 家族心理学特論	2		休講	
	春	M 集団力学特論	2	廣 川 進		
	集中	M 学校臨床心理学特論	2	伊 藤 亜矢子		
	秋	M 障害者(児)心理学特論	2	井 潤 知 美		
	秋	M 地域援助特論	2	近 藤 直 司		
		M 関係法規特論	2		休講	
	春	M グループアプローチ特論	2	玉 井 邦 夫		
		M 人間学特論 A	2		休講	
		M 人間学特論 B	2		休講	
	通	M 臨床心理学特殊研究	4			2年にわたり8単位必修

※合計30単位以上修得すること。

※講義の具体的な開講方法・日程については、事前に公示する。

人間科学専攻

人間科学専攻

本専攻は、人間が、変化する社会の中でさまざまな集団・組織に参加しながら、社会的、心理的、生理的に発達していく過程についての教育研究を行うことを目的とする。なお、本専攻の博士後期課程である、福祉・臨床心理学専攻は27頁を参照すること。

基礎科目

人間科学特論、データ分析法、心理学的測定法を基礎科目とする。

分野科目

主専攻とする分野の科目は、特論型と演習型があるが、単位上、両者の区別はない。

専門社会調査士

社会調査士資格をもつ者は、原則として、本専攻でデータ分析法、多変量解析法、質的調査法の単位を修得すれば専門社会調査士の申請資格を取得できる。申請資格にはその他特別な条件もあるので、資格取得を希望する者は、履修科目の選択にあたり専攻の指導を受けること。

大学院社会学分野の単位互換制度

本学では、茨城大学・大妻女子大学・駒澤大学・埼玉大学・上智大学・成蹊大学・専修大学・創価大学・千葉大学・中央大学・都留文科大学・東洋大学・常磐大学・日本女子大学・日本大学・法政大学・武蔵大学・明治学院大学・明治大学・立教大学・立正大学・流通経済大学の22大学の大学院社会学および社会学関係専門科目を開講している専攻間に「大学院社会学分野の単位互換制度に関する協定」を締結している。協定校で修得できる単位は、在学中10単位を限度とし、修了に必要な単位として認定する。募集は、原則毎年4月初旬に研究室を通じて行う。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

人間科学専攻別表(修士)

科目区分	学期	科目名	単位	担当教員	備考	修士課程
基礎科目	春	M 人間科学特論	2	山内 兄人		2科目4単位以上 選択必修
	春	M データ分析法	2	澤口 恵一		
	春	M 心理学の測定法	2	荒生 弘史	心理学系研究倫理教育を含む	
分野科目	春	M 社会学系特論A	2	井出 裕久	社会学系研究倫理教育を含む	
		M 社会学系特論B	2		休講	
		M 社会学系特論C	2		休講	
		M 心理学系特論A	2		休講	
		M 心理学系特論B	2		休講	
		M 生涯教育系特論	2		休講	
	春	M 社会学系演習A	2	大野 道夫		
	秋	M 社会学系演習B	2	荒川 康		
	春	M 心理学系演習A	2	荒生 弘史		
		M 心理学系演習B	2		休講	
		M 生涯教育系演習A	2		休講	
		M 生涯教育系演習B	2		休講	
	秋	M 多変量解析法	2	澤口 恵一		
	秋	M 質的調査法	2	井出 裕久		
	春	M 人間学特論A	2	内藤 いづみ		
	秋	M 人間学特論B	2	内藤 いづみ		
		M 人間科学特殊研究	4			2年にわたり8単位必修

※合計30単位以上修得すること。

※科目の履修方法については、別途専攻より指示する。

福祉・臨床心理学専攻

福祉・臨床心理学専攻

本専攻は、少子高齢化など急激な社会変動の過程で生じてくる複雑多岐にわたる社会ならびに人間の問題に対応するため、高度な専門性を有する人材の養成を目的とする。具体的な教育・研究は、社会福祉学、臨床心理学、人間科学の3分野にわかれて行う。社会福祉学と臨床心理学は、本学が創立当初から堅持してきた教育理念である仏教思想を基盤として、ヒューマン・サービスの理論と技術論を体系的・実践的に学び、今日的課題に柔軟に対応できる高度な専門性を有した人材を養成する。人間科学は、より広い視野にたって、人間の科学的理解に理論的かつ実証的にアプローチできる人材を養成する。科目の履修方法については、指導教授の指示にしたがうこと。

- ① 社会福祉学
- ② 臨床心理学
- ③ 人間科学

研究指導の方法と学位の授与

所定の研究指導を受け、必要な単位を修得し学位請求論文（課程博士）を提出の後、試験に合格することによって、博士（人間学）の学位が授与される。論文提出までの期間、修士課程と同様に必要に応じて成果発表（プレゼンテーション）を実施し、研究の進捗状況を報告しなければならない。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

福祉・臨床心理学専攻別表(博士)

学期	科目名	単位	担当教員	備考
通	D 特殊研究(研究指導)	4	各指導教員	研究倫理教育を含む

※ 3年にわたり12単位必修

宗教学専攻

宗教学専攻

本専攻は修士課程と博士後期課程とにわかれており、修士課程2年・博士後期課程3年に区分する。研究内容により3つの分野に分かれるが、科目の履修方法については指導教授の指示にしたがうこと。

- ① 宗 教 学 ② 東洋哲学 ③ 西洋哲学

科目の履修方法

- (1) **修士課程** 各自の研究分野にしたがい、講義22単位以上、特殊研究8単位、合計30単位以上を修得するものとする。
- (2) **博士後期課程** 特殊研究12単位修得するものとする。

首都圏宗教単位互換協定

本学では、國學院大學・創価大学・東洋英和女学院大学・駒澤大学・聖心女子大学・立教大学の6大学の大学院宗教学および宗教学関係専門科目を開講している専攻間に「首都圏大学における大学院委託科目等履修生制度に関する協定」（略称「首都圏宗教単位互換協定」）を締結している。協定校で修得できる単位は、在学中10単位を限度とし、修了に必要な単位として認定する。募集は、原則毎年4月初旬に研究室を通じて行う。なお、履修するためには各大学が定める履修料が必要となる。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

宗教学専攻別表(修士)

学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	修士課程
春	M 宗教学基礎論 A	2	寺 田 喜 朗		22単位以上 選択必修
	M 宗教学基礎論 B	2		休講	
春	M 宗教学特論 A	2	村 上 興 匡	研究倫理教育を含む	
	M 宗教学特論 B	2		休講	
春	M 宗教学特論 C	2	藤 原 聖 子		
秋	M 宗教学特論 D	2	弓 山 達 也		
春	M 宗教学特論 E	2	春 本 秀 雄		
	M 宗教学特論 F	2		休講	
	M 宗教哲学特論 A	2		休講	
春	M 宗教哲学特論 B	2	高 橋 秀 裕		
秋	M 宗教哲学特論 C	2	星 川 啓 慈		
秋	M 宗教哲学特論 D	2	春 本 秀 雄		
	M 宗教哲学特論 E	2		休講	
	M 宗教哲学特論 F	2		休講	
春	M 宗教史特論 A	2	村 上 興 匡		
	M 宗教史特論 B	2		休講	
春	M 宗教思想史特論	2	弓 山 達 也		
集中	M 宗教心理学特論	2	松 島 公 望		
秋	M 宗教社会学特論	2	寺 田 喜 朗		
	M 宗教民族学特論	2		休講	
	M 宗教民俗学特論	2		休講	
春	M 比較思想史特論 A	2	司 馬 春 英		2年にわたり 8単位選択必修
秋	M 比較思想史特論 B	2	司 馬 春 英		
春	M 人間学特論 A	2	内 藤 いづみ		
秋	M 人間学特論 B	2	内 藤 いづみ		
通	M 宗教学特殊研究	4			
通	M 宗教哲学特殊研究	4			

※修士課程については、合計30単位以上修得すること。

宗教学専攻別表(博士)

学期	科目名	単位	担当教員	備考	博士後期課程
春	D 宗教学特論 A	2	村 上 興 匡	研究倫理教育を含む	自由選択科目
春	D 宗教学特論 C	2	藤 原 聖 子		
秋	D 宗教学特論 D	2	弓 山 達 也		
春	D 宗教学特論 E	2	春 本 秀 雄		
春	D 宗教哲学特論 B	2	高 橋 秀 裕		
秋	D 宗教哲学特論 C	2	星 川 啓 慈		
秋	D 宗教哲学特論 D	2	春 本 秀 雄		
春	D 宗教史特論 A	2	村 上 興 匡		
春	D 宗教思想史特論	2	弓 山 達 也		
	D 宗教民族学特論	2		休講	
	D 宗教民俗学特論	2		休講	
春	D 比較思想史特論 A	2	司 馬 春 英		
秋	D 比較思想史特論 B	2	司 馬 春 英		
通	D 宗教学特殊研究	4			3年にわたり 12単位選択必修
通	D 宗教哲学特殊研究	4			

※博士後期課程については、特殊研究12単位修得すること。

史学専攻

史学専攻

本専攻は修士課程と博士後期課程とにわかれており、修士課程2年・博士後期課程3年に区分する。研究内容によりいくつかの分野にわかれるが、科目の履修方法については指導教授の指示にしたがうこと。

科目の履修方法

- (1) **修士課程** 各自の研究分野にしたがい、講義22単位以上、特殊研究8単位、合計30単位以上を修得するものとする。
- (2) **博士後期課程** 特殊研究12単位修得するものとする。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

史学専攻別表(修士)

学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	修士課程
春	M 日本史特論A	2	榎 本 淳 一		22単位以上 選択必修
秋	M 日本史特論B	2	榎 本 淳 一		
春	M 日本史特論C	2	三 浦 龍 昭		
秋	M 日本史特論D	2	三 浦 龍 昭		
春	M 日本史特論E	2	福 井 淳		
秋	M 日本史特論F	2	福 井 淳		
春	M 日本史史料論A	2	佐々木 倫 朗		
秋	M 日本史史料論B	2	佐々木 倫 朗		
春	M 東洋史特論A	2	宮 寄 洋 一		
秋	M 東洋史特論B	2	宮 寄 洋 一		
秋	M 東洋史特論A	2	小 林 伸 二		
春	M 東洋史特論B	2	小 林 伸 二		
	M 東洋史特論A	2		休講	
	M 東洋史特論B	2		休講	
春	M 東洋史史料論A	2	窪 田 新 一		
秋	M 東洋史史料論B	2	窪 田 新 一		
	M 西洋史特論A	2		休講	
秋	M 西洋史特論B	2	白 木 太 一		
春	M 考古学特論A	2	御堂島 正		
春	M 考古学特論B	2	塚 田 良 道		
秋	M 考古学演習A	2	塚 田 良 道		
秋	M 考古学演習B	2	御堂島 正		
春	M 仏教史特論A	2	坂 本 正 仁		
秋	M 仏教史特論B	2	坂 本 正 仁		
春	M 仏教史特論A(インド)	2	三 代 舞	仏教学開講科目	
秋	M 仏教史特論B(インド)	2	三 代 舞	仏教学開講科目	
春	M 仏教史特論C(中国)	2	柴 田 泰 山	仏教学開講科目	
秋	M 仏教史特論D(中国)	2	柴 田 泰 山	仏教学開講科目	
春	M 仏教史特論E(日本)	2	苦米地 誠 一	仏教学開講科目	
秋	M 仏教史特論F(日本)	2	苦米地 誠 一	仏教学開講科目	
春	M 仏教美術史特論A	2	副 島 弘 道		
秋	M 仏教美術史特論B	2	副 島 弘 道		
春	M 文化財特論	2	加 島 勝		
秋	M 文化財演習	2	加 島 勝		
春	M 地理学特論A	2	原 芳 生		※1
	M 地理学特論B	2		休講	
春	M 人間学特論A	2	内 藤 いづみ		
秋	M 人間学特論B	2	内 藤 いづみ		
通	M 日本史特殊研究	4		研究倫理教育を含む	2年にわたり 8単位選択必修
通	M 東洋史特殊研究	4		研究倫理教育を含む	

※修士課程については、合計30単位以上修得すること。

史学専攻別表(博士)

学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	博士後期課程
春	D 日本史特論 A	2	榎 本 淳 一		自由選択科目
秋	D 日本史特論 B	2	榎 本 淳 一		
春	D 日本史史料論 A	2	佐々木 倫 朗		
秋	D 日本史史料論 B	2	佐々木 倫 朗		
春	D 東洋史特論 A	2	宮 寄 洋 一		
秋	D 東洋史特論 B	2	宮 寄 洋 一		
秋	D 東洋史特論 A	2	小 林 伸 二		
春	D 東洋史特論 B	2	小 林 伸 二		
	D 東洋史特論 A	2		休講	
	D 東洋史特論 B	2		休講	
春	D 考古学特論 A	2	御堂島 正		
春	D 考古学特論 B	2	塚 田 良 道		
秋	D 考古学演習 A	2	塚 田 良 道		
秋	D 考古学演習 B	2	御堂島 正		
春	D 仏教史特論 A	2	坂 本 正 仁		
秋	D 仏教史特論 B	2	坂 本 正 仁		
春	D 仏教美術史特論 A	2	副 島 弘 道		
秋	D 仏教美術史特論 B	2	副 島 弘 道		
春	D 文化財特論	2	加 島 勝		
秋	D 文化財演習	2	加 島 勝		
通	D 日本史特殊研究	4		研究倫理教育を含む	3年にわたり 12単位選択必修
通	D 東洋史特殊研究	4		研究倫理教育を含む	

※博士後期課程については、特殊研究12単位修得すること。

国文学専攻

国文学専攻

本専攻は修士課程と博士後期課程とにわかれており、修士課程2年・博士後期課程3年に区分する。研究内容により、大きく2つの分野に分かれるが、科目の履修方法については指導教授の指示にしたがうこと。

- ① 国文学
- ② 国語学

科目の履修方法

- (1) **修士課程** 各自の研究分野にしたがい、講義22単位以上、特殊研究8単位、合計30単位以上を修得するものとする。
- (2) **博士後期課程** 特殊研究12単位修得するものとする。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

国文学専攻別表(修士)

学期	科目名	単位	担当教員	備考	修士課程
春	M 文芸特論Ⅰ	2	山本章博		22単位以上 選択必修
	M 文芸特論Ⅱ	2		休講	
春	M 小説特論Ⅰ	2	小嶋知善		
秋	M 小説特論Ⅱ	2	小嶋知善		
	M 表現文化研究Ⅰ	2		休講	
春	M 表現文化研究Ⅱ	2	大場朗	研究倫理教育を含む	
	M 言語文化論Ⅰ	2		休講	
春	M 言語文化論Ⅰ	2	伊藤雅光		
	M 言語文化論Ⅱ	2		休講	
	M 仏教文学研究Ⅰ	2		休講	
秋	M 仏教文学研究Ⅱ	2	大場朗		
春	M 文芸批評研究Ⅰ	2	山内洋		
	M 文芸批評研究Ⅱ	2		休講	
春	M 文学と国語教育Ⅰ	2	梅澤亜由美		
秋	M 文学と国語教育Ⅱ	2	山本章博		
	M 日本語学研究Ⅰ	2		休講	
	M 日本語学研究Ⅱ	2		休講	
	M 視聴覚芸術研究Ⅰ	2		休講	
	M 視聴覚芸術研究Ⅱ	2		休講	
春	M 人間学特論A	2	内藤いづみ		
秋	M 人間学特論B	2	内藤いづみ		
通	M 国文学特殊研究	4			2年にわたり 8単位選択必修
通	M 国語学特殊研究	4			
通	M 表現学特殊研究	4			

※修士課程については、合計30単位以上修得すること。

国文学専攻別表(博士)

学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	博士後期課程
	D 文芸特論Ⅱ	2		休講	自由選択科目
春	D 小説特論Ⅰ	2	小 嶋 知 善		
秋	D 小説特論Ⅱ	2	小 嶋 知 善		
春	D 表現文化研究Ⅱ	2	大 場 朗	研究倫理教育を含む	
春	D 言語文化論Ⅰ	2	伊 藤 雅 光		
	D 言語文化論Ⅱ	2		休講	
	D 仏教文学研究Ⅰ	2		休講	
秋	D 仏教文学研究Ⅱ	2	大 場 朗		
	D 文芸批評研究Ⅱ	2		休講	
	D 日本語学研究Ⅰ	2		休講	
	D 日本語学研究Ⅱ	2		休講	
	D 視聴覚芸術研究Ⅰ	2		休講	
	D 視聴覚芸術研究Ⅱ	2		休講	
通	D 国文学特殊研究	4			3年にわたり 12単位選択必修
通	D 国語学特殊研究	4			
通	D 表現学特殊研究	4			

※博士後期課程については、特殊研究12単位修得するものとする。

比較文化専攻

比較文化専攻

本専攻は修士課程と博士後期課程とにわかれており、修士課程2年・博士後期課程3年に区分する。科目の履修方法については指導教授の指示にしたがうこと。

科目の履修方法

- (1) **修士課程** 各自の研究分野にしたがい、特殊研究8単位を含め、合計30単位以上を修得するものとする。基礎科目の比較文化総論A・比較文化総論B・比較文化総合演習A・比較文化総合演習Bの4科目8単位が必修である。分野科目は、7科目14単位が選択必修であるが、科目の選択については、指導教授の指示にしたがうこと。自由選択は必要に応じて履修すること。
- (2) **博士後期課程** 特殊研究12単位修得するものとする。

その他

「大学院研究科共通科目（他専攻聴講科目）」「特殊研究・課題研究・研究指導・実践分析研究・事例研究」「研究指導報告書」「学位」については前掲「読むガイダンス」「履修および試験」の項目を必ず参照すること。

比較文化専攻別表(修士)

科目区分	学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考	修士課程
基礎科目		M 比較文化総論 A	2		休講	4科目8単位 必修
	春	M 比較文化総論 B	2	全専任教員	研究倫理教育を含む	
		M 比較文化総合演習 A	2		休講	
	秋	M 比較文化総合演習 B	2	全専任教員		
分野科目		M 比較文化特論 A	2		休講	7科目14単位 選択必修
		M 比較文化演習 A	2		休講	
	春	M 比較文化特論 B	2	伊 藤 淑 子		
	秋	M 比較文化演習 B	2	伊 藤 淑 子		
		M 比較文化特論 C	2		休講	
		M 比較文化演習 C	2		休講	
	春	M 比較文化特論 D	2	西 蔭 浩 子		
	秋	M 比較文化演習 D	2	古 家 聡		
		M 比較文化特論 E	2		休講	
		M 比較文化演習 E	2		休講	
	春	M 比較文化特論 F	2	星 川 啓 慈		
		M 比較文化演習 F	2		休講	
		M 比較文化特論 G	2		休講	
		M 比較文化演習 G	2		休講	
	春	M 人間学特論 A	2	内 藤 いづみ		
	秋	M 人間学特論 B	2	内 藤 いづみ		
	通	M 比較文化特殊研究	4	各指導教員	個別の履修指導により指導教授を決定	2年にわたり 8単位選択必修
関連科目		M 英語教育特論 A	2		休講	必要に応じて 選択
		M 英語教育特論 B	2		休講	
		M 英語コミュニケーション特論	2		休講	
	秋	M 英語圏文化特論	2	西 蔭 浩 子		
		M イギリス文化特論	2		休講	

※修士課程については、合計30単位以上修得すること。

比較文化専攻別表(博士)

科目区分	学期	科目名	単位	担当教員	備考	博士後期課程
基礎科目		D 比較文化総論 A	2		休講	自由選択科目
	春	D 比較文化総論 B	2	全専任教員	研究倫理教育を含む	
		D 比較文化総合演習 A	2		休講	
	秋	D 比較文化総合演習 B	2	全専任教員		
分野科目		D 比較文化特論 A	2		休講	
		D 比較文化演習 A	2		休講	
	春	D 比較文化特論 B	2	伊 藤 淑 子		
	秋	D 比較文化演習 B	2	伊 藤 淑 子		
		D 比較文化特論 C	2		休講	
		D 比較文化演習 C	2		休講	
	春	D 比較文化特論 D	2	西 蔭 浩 子		
	秋	D 比較文化演習 D	2	古 家 聡		
		D 比較文化特論 E	2		休講	
		D 比較文化演習 E	2		休講	
	春	D 比較文化特論 F	2	星 川 啓 慈		
		D 比較文化演習 F	2		休講	
		D 比較文化特論 G	2		休講	
		D 比較文化演習 G	2		休講	
	通	D 比較文化特殊研究	4	各指導教員	個別の履修指導により指導教授を決定	3年にわたり12単位選択必修
関連科目		D 英語教育特論 A	2		休講	自由選択
		D 英語教育特論 B	2		休講	
		D 英語コミュニケーション特論	2		休講	
	秋	D 英語圏文化特論	2	西 蔭 浩 子		
		D イギリス文化特論	2		休講	

※博士後期課程については、特殊研究12単位修得すること。

大学院研究科共通科目

平成17年度より、「大学院研究科共通科目」を開設しています。開設の趣旨は、本学大学院で開講している科目で、自分の専攻の専門科目に加えてそれぞれの関心のある分野の科目を履修することにより、あるいは自専攻の近隣領域を学ぶことにより、修了時により幅広い視野と知識を身につけてほしいからです。

しかし、本来「大学院研究科共通科目」は他専攻の専門科目であるため、専門領域の知識がないことや「大学院研究科共通科目」として開放している当該専攻の学修を保持するために履修に制限を設ける場合があります。履修に際しては授業担当教員とよく相談してください。

なお、修得単位は、当該専攻の修了単位として認定します。ただし、在学中に修得できる単位数は8単位を上限とします。この「大学院研究科共通科目」については、所定の用紙（大学院他専攻聴講願）を授業担当教員に提出する必要があります。

研究科	専 攻	学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考
仏教学	仏教学専攻	春	M 仏教学特論A	2	野 口 圭 也	
		春	M 仏教学特論A	2	元 山 公 寿	
		春	M 仏教学特論A	2	渡 辺 章 悟	
		秋	M 仏教学特論B	2	野 口 圭 也	
		秋	M 仏教学特論B	2	元 山 公 寿	
		秋	M 仏教学特論B	2	渡 辺 章 悟	
		春	M 仏教学特論C	2	勝 野 隆 広	
		春	M 仏教学特論C	2	野 口 圭 也	
		春	M 仏教学特論C	2	佐久間 秀 範	
		秋	M 仏教学特論D	2	勝 野 隆 広	
		秋	M 仏教学特論D	2	野 口 圭 也	
		秋	M 仏教学特論D	2	佐久間 秀 範	
		春	M 仏教史特論A(インド)	2	三 代 舞	
		秋	M 仏教史特論B(インド)	2	三 代 舞	
		春	M 仏教史特論C(中国)	2	柴 田 泰 山	
		秋	M 仏教史特論D(中国)	2	柴 田 泰 山	
		春	M 仏教史特論E(日本)	2	苫米地 誠 一	
		秋	M 仏教史特論F(日本)	2	苫米地 誠 一	
		春	M 大乘仏教思想特論A	2	野 口 圭 也	
		秋	M 大乘仏教思想特論B	2	野 口 圭 也	
		春	M 仏教文献特論A	2	西 村 実 則	
		秋	M 仏教文献特論B	2	西 村 実 則	
		春	M 仏教文献特論C	2	木 村 周 誠	
		秋	M 仏教文献特論D	2	木 村 周 誠	
		春	M インド哲学特論A	2	種 村 隆 元	
		秋	M インド哲学特論B	2	種 村 隆 元	
		春	M 梵文学特論A	2	種 村 隆 元	
		秋	M 梵文学特論B	2	種 村 隆 元	
		春	M 仏教文化特論A	2	野 口 圭 也	
		秋	M 仏教文化特論B	2	野 口 圭 也	
		春	M 応用仏教学特論A	2	神 達 知 純	
		秋	M 応用仏教学特論B	2	神 達 知 純	
		春	M 天台学特論A	2	塩 入 法 道	
		秋	M 天台学特論B	2	塩 入 法 道	
		春	M 天台学特論C	2	塩 入 法 道	

研究科	専攻	学期	科目名	単位	担当教員	備考
仏教学	仏教学専攻	秋	M 天台学特論D	2	塩 入 法 道	
		春	M 天台教理史特論A	2	水 上 文 義	
		秋	M 天台教理史特論B	2	水 上 文 義	
		春	M 応用天台学特論A	2	勝 野 隆 広	
		秋	M 応用天台学特論B	2	勝 野 隆 広	
		春	M 真言学特論A	2	苔米地 誠 一	
		秋	M 真言学特論B	2	苔米地 誠 一	
		春	M 真言学特論C	2	大 塚 伸 夫	
		秋	M 真言学特論D	2	大 塚 伸 夫	
		春	M 真言教理史特論A	2	苔米地 誠 一	
		秋	M 真言教理史特論B	2	苔米地 誠 一	
		春	M 密教学特論A	2	木 村 秀 明	
		秋	M 密教学特論B	2	木 村 秀 明	
		春	M 応用真言学特論A	2	元 山 公 寿	
		秋	M 応用真言学特論B	2	元 山 公 寿	
		春	M 浄土学特論A	2	林 田 康 順	
		秋	M 浄土学特論B	2	林 田 康 順	
		春	M 浄土学特論C	2	西 村 実 則	
		春	M 浄土学特論C	2	曾 根 宣 雄	
		秋	M 浄土学特論D	2	西 村 実 則	
		秋	M 浄土学特論D	2	曾 根 宣 雄	
		春	M 浄土教理史特論A	2	林 田 康 順	
		秋	M 浄土教理史特論B	2	林 田 康 順	
		春	M 応用浄土学特論A	2	曾 根 宣 雄	
		秋	M 応用浄土学特論B	2	曾 根 宣 雄	
人間学	社会福祉学専攻	春	M 仏教ソーシャルワーク研究	2	石 川 到 覚	
		秋	M 精神保健福祉研究	2	坂 本 智代枝	
	臨床心理学専攻	春	M 精神医学特論	2	内 山 登紀夫	
		秋	M 障害者(児)心理学特論	2	井 潤 知 美	
		秋	M 地域援助特論	2	近 藤 直 司	
	人間科学専攻	春	M 人間科学特論	2	山 内 兄 人	
		春	M 社会学系特論A	2	井 出 裕 久	
		秋	M 質的調査法	2	井 出 裕 久	
文学	宗教学専攻	春	M 宗教学基礎論A	2	寺 田 喜 朗	
		春	M 宗教学特論C	2	藤 原 聖 子	
		秋	M 宗教学特論D	2	弓 山 達 也	
		春	M 宗教学特論E	2	春 本 秀 雄	
		集中	M 宗教心理学特論	2	松 島 公 望	

研究科	専 攻	学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考
文学	宗教学専攻	秋	M 宗教哲学特論C	2	星 川 啓 慈	
		秋	M 宗教哲学特論D	2	春 本 秀 雄	
		春	M 宗教史特論A	2	村 上 興 匡	
		春	M 宗教思想史特論	2	弓 山 達 也	
		秋	M 宗教社会学特論	2	寺 田 喜 朗	
		春	M 比較思想史特論A	2	司 馬 春 英	
		秋	M 比較思想史特論B	2	司 馬 春 英	
	史学専攻	秋	M 東洋史特論A	2	小 林 伸 二	
		春	M 東洋史特論B	2	小 林 伸 二	
		春	M 東洋史料論A	2	窪 田 新 一	
		秋	M 東洋史料論B	2	窪 田 新 一	
		秋	M 西洋史特論B	2	白 木 太 一	
		春	M 仏教史特論A	2	坂 本 正 仁	
		秋	M 仏教史特論B	2	坂 本 正 仁	
		春	M 仏教美術史特論A	2	副 島 弘 道	
		秋	M 仏教美術史特論B	2	副 島 弘 道	
		春	M 文化財特論	2	加 島 勝	
		秋	M 文化財演習	2	加 島 勝	
		春	M 地理学特論A	2	原 芳 生	
	国文学専攻	春	M 文芸特論Ⅰ	2	山 本 章 博	
		春	M 小説特論Ⅰ	2	小 嶋 知 善	
		秋	M 小説特論Ⅱ	2	小 嶋 知 善	
		春	M 表現文化研究Ⅱ	2	大 場 朗	
		春	M 言語文化論Ⅰ	2	伊 藤 雅 光	
		秋	M 仏教文学研究Ⅱ	2	大 場 朗	
		秋	M 文芸批評研究Ⅰ	2	山 内 洋	
		春	M 文学と国語教育Ⅰ	2	梅 澤 亜由美	
		秋	M 文学と国語教育Ⅱ	2	山 本 章 博	
	比較文化専攻	春	M 比較文化総論B	2	全 専 任 教 員	
		秋	M 比較文化総合演習B	2	全 専 任 教 員	
		春	M 比較文化特論B	2	伊 藤 淑 子	
		秋	M 比較文化演習B	2	伊 藤 淑 子	
		春	M 比較文化特論D	2	西 蔭 浩 子	
		春	M 比較文化特論F	2	星 川 啓 慈	
		秋	M 比較文化演習D	2	古 家 聡	
		秋	M 英語圏文化特論	2	西 蔭 浩 子	

研究科	専攻	学期	科目名	単位	担当教員	備考
仏教学	仏教学専攻	春	D 仏教学特論A	2	渡 辺 章 悟	
		秋	D 仏教学特論B	2	渡 辺 章 悟	
		春	D 仏教学特論C	2	勝 野 隆 広	
		春	D 仏教学特論C	2	野 口 圭 也	
		春	D 仏教学特論C	2	佐久間 秀 範	
		秋	D 仏教学特論D	2	勝 野 隆 広	
		秋	D 仏教学特論D	2	野 口 圭 也	
		秋	D 仏教学特論D	2	佐久間 秀 範	
		春	D 大乘仏教思想特論A	2	野 口 圭 也	
		秋	D 大乘仏教思想特論B	2	野 口 圭 也	
		春	D 仏教文献特論A	2	西 村 実 則	
		秋	D 仏教文献特論B	2	西 村 実 則	
		春	D インド哲学特論A	2	種 村 隆 元	
		秋	D インド哲学特論B	2	種 村 隆 元	
		春	D 梵文学特論A	2	種 村 隆 元	
		秋	D 梵文学特論B	2	種 村 隆 元	
		春	D 仏教文化特論A	2	野 口 圭 也	
		秋	D 仏教文化特論B	2	野 口 圭 也	
		春	D 天台学特論A	2	塩 入 法 道	
		秋	D 天台学特論B	2	塩 入 法 道	
		春	D 天台学特論C	2	塩 入 法 道	
		秋	D 天台学特論D	2	塩 入 法 道	
		春	D 真言学特論A	2	苔米地 誠 一	
		秋	D 真言学特論B	2	苔米地 誠 一	
		春	D 真言学特論C	2	大 塚 伸 夫	
		秋	D 真言学特論D	2	大 塚 伸 夫	
		春	D 密教学特論A	2	木 村 秀 明	
		秋	D 密教学特論B	2	木 村 秀 明	
		春	D 浄土学特論A	2	林 田 康 順	
		秋	D 浄土学特論B	2	林 田 康 順	
		春	D 浄土学特論C	2	西 村 実 則	
		春	D 浄土学特論C	2	曾 根 宣 雄	
		秋	D 浄土学特論D	2	西 村 実 則	
		秋	D 浄土学特論D	2	曾 根 宣 雄	
		春	D 宗教学特論C	2	藤 原 聖 子	
		秋	D 宗教学特論D	2	弓 山 達 也	
		春	D 宗教学特論E	2	春 本 秀 雄	

研究科	専 攻	学期	科 目 名	単位	担当教員	備 考
文学	宗教学専攻	秋	D 宗教哲学特論C	2	星 川 啓 慈	
		秋	D 宗教哲学特論D	2	春 本 秀 雄	
		春	D 宗教史特論A	2	村 上 興 匡	
		春	D 宗教思想史特論	2	弓 山 達 也	
		春	D 比較思想史特論A	2	司 馬 春 英	
		秋	D 比較思想史特論B	2	司 馬 春 英	
	史学専攻	秋	D 東洋史特論A	2	小 林 伸 二	
		春	D 東洋史特論B	2	小 林 伸 二	
		春	D 仏教史特論A	2	坂 本 正 仁	
		秋	D 仏教史特論B	2	坂 本 正 仁	
		春	D 仏教美術史特論A	2	副 島 弘 道	
		秋	D 仏教美術史特論B	2	副 島 弘 道	
		春	D 文化財特論	2	加 島 勝	
		秋	D 文化財演習	2	加 島 勝	
	国文学専攻	春	D 小説特論Ⅰ	2	小 嶋 知 善	
		秋	D 小説特論Ⅱ	2	小 嶋 知 善	
		春	D 表現文化研究Ⅱ	2	大 場 朗	
		春	D 言語文化論Ⅰ	2	伊 藤 雅 光	
		秋	D 仏教文学研究Ⅱ	2	大 場 朗	
	比較文化専攻	春	D 比較文化総論B	2	全 専 任 教 員	
		秋	D 比較文化総合演習B	2	全 専 任 教 員	
		春	D 比較文化特論B	2	伊 藤 淑 子	
		秋	D 比較文化演習B	2	伊 藤 淑 子	
		春	D 比較文化特論D	2	西 蔭 浩 子	
		春	D 比較文化特論F	2	星 川 啓 慈	
		秋	D 比較文化演習D	2	古 家 聡	
		秋	D 英語圏文化特論	2	西 蔭 浩 子	

教職・諸資格課程

教職・諸資格課程
の履修

本学で取得できる資格は以下のとおりですが、教職・諸資格（専修免許は除く）科目の履修は、原則として、本学卒業生で、学部在籍当時、一部の資格科目の単位を修得できなかった学生を対象に履修を認めています。

これらの教職・諸資格科目は、学部で開設されているので、各種資格の取得を希望する学生は、科目等履修生として学部科目を履修しなければなりません。学部授業科目の履修に係る費用（資格登録料・履修料）は別途負担となります（「学部科目等履修生出願手続要項」は教務部教務課にて配布）。

教職・諸資格のカリキュラムは、学部学生が通常3年間で資格を取得できるように設定されています。大学院科目の開講は、当該資格科目の開講時間帯など考慮していませんので、そのことに鑑みると、大学院生で新規に資格を取得することは推奨していません。大学院在学中に資格を取得することができず、課程修了後も科目等履修生として履修しなければならないことも考えられます。それらを認識したうえで新規に資格を取得し始めたいと考えている学生は、各種資格の詳細な説明をしますので、教務部教務課へご相談ください。

資格の種類

①教職課程

- ・ 中学校一種免許状 国語、社会、英語、宗教
- ・ 高等学校一種免許状 国語、地理歴史、公民、書道、英語、宗教
- ・ 中学校専修免許状 国語、社会、英語、宗教
- ・ 高等学校専修免許状 国語、地理歴史、公民、英語、宗教

②社会教育主事

③学芸員

④図書館司書

⑤司書教諭

⑥日本語教員養成講座

⑦僧階

⑧社会教化者養成講座

⑨浄土宗開教師養成講座

※各資格についての詳細は別冊『資格要項』を参照してください。

教職課程

本学大学院修士課程では、各専攻ごとに以下の専修免許状を取得することができます。ただし、それぞれの免許教科の専修免許状を取得するためには、その基礎となる一種免許状を取得していることが条件となります。

専修免許状の「教科に関する科目」は、46～49頁を参照してください。

取得できる免許教科

種類 \ 専攻	仏教学	社会福祉学	臨床心理学	人間科学	宗教学	史学	国文学	比較文化
中学校専修	宗教	社会	—	社会	宗教	社会	国語	英語
高等学校専修	宗教	公民	公民	公民	宗教	地理歴史	国語	英語

基礎となる一種免許状

種類 \ 専攻	仏教学	社会福祉学	臨床心理学	人間科学	宗教学	史学	国文学	比較文化
中学校一種	宗教	社会	—	社会	宗教	社会	国語	英語
高等学校一種	宗教	公民	公民	公民	宗教	地理歴史	国語	英語

一種免許状の取得

基礎となる一種免許状を取得していない学生が専修免許状の取得を希望する場合は、学部において（科目等履修生として）当該教科の一種免許状取得に必要な単位を修得しなければなりません。この場合、2年間で当該単位を修得することが困難な場合がありますので、履修を開始する前に必ず教務部教務課で指導を受けてください。

なお、一種免許状に関する詳細については、別冊『資格要項』を参照してください。

免許状の申請

教育職員免許状は、居住地の都道府県教育委員会が授与するものです。
本学では、東京都教育委員会へ一括して申請するという方法で免許状の交付を受けています。
専修免許状の一括申請を希望する学生は、修了年次の6月中に教務課窓口に申し出てください。

修了年次	7月	一括申請ガイダンスⅠ（教員免許状授与申請書申込書の作成）	
	11月	一括申請ガイダンスⅡ（教員免許授与申請書の確認・署名・捺印・手数料納付）	印鑑持参（簡易印不可）
	3月	教員免許状交付	学位授与式当日 印鑑持参

※一括申請を希望しない者および、未申請の者で免許状の申請を希望する場合は、個人で申請しなければなりません。申請手続きは都道府県によって異なるので、居住地の教育委員会に問い合わせてください。

教科に関する科目

専修免許状を取得するためには、当該免状の基礎となる一種免許状を取得し、かつ各専攻ごとに定める別表の中から24単位以上修得しなければなりません。ただし、他専攻開講科目の修得単位は、教科に関する科目としては認定されないので十分注意してください。

仏教学専攻

人間学特論A、Bおよび課題研究を除く修得単位をすべて認定する。

社会福祉学専攻

社会福祉学専攻開講科目のうち、下表の単位を中学校専修免許状社会および、高等学校専修免許状公民の単位として認定する。

中学校専修社会・高等学校専修公民

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	本学開講科目名	単位数	備 考
社会、公民の教科に関する科目	24	仏教福祉研究	2	6単位必修
		ソーシャルワーク研究法	2	
		データ分析法	2	
		社会福祉政策研究	2	18単位以上選択必修
		子ども家庭福祉研究	2	
		障害者福祉研究	2	
		高齢者福祉研究	2	
		生活問題研究	2	
		精神保健福祉研究	2	
		医療福祉研究	2	
		国際福祉研究	2	
		多変量解析法	2	

臨床心理学専攻

臨床心理学専攻開講科目のうち、下表の単位を高等学校専修免許状公民の単位として認定する。

高等学校専修公民

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	本学開講科目名	単位数	備 考
公民の教科に関する科目	24	臨床心理学特論 A・B	各 2	24単位以上選択必修
		臨床心理学査定特論 A・B	各 2	
		臨床心理面接特論 A・B	各 2	
		臨床倫理特論	2	
		臨床心理学専門特論 A・B	各 2	
		臨床心理学研究法特論	2	
		心理学研究法特論	2	
		人格心理学特論	2	
		発達心理学特論	2	
		精神医学特論	2	
		神経心理学特論	2	
		家族心理学特論	2	
		集団力学特論	2	
		学校臨床心理学特論	2	
		障害者(児)心理学特論	2	
		地域援助特論	2	

人間科学専攻

人間科学専攻開設科目のうち、下表 1 の単位を中学校専修免許状社会の単位に、表 2 の単位を高等学校専修免許状公民の単位としてそれぞれ認定する。

表 1 中学校専修社会

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	本学開講科目名	単位数	備 考
社会の教科に関する科目	24	人 間 科 学 特 論	2	24単位以上選択必修
		デ ー タ 分 析 法	2	
		社 会 学 系 特 論 A	2	
		社 会 学 系 特 論 B	2	
		社 会 学 系 特 論 C	2	
		生 涯 教 育 系 特 論	2	
		社 会 学 系 演 習 A	2	
		社 会 学 系 演 習 B	2	
		生 涯 教 育 系 演 習 A	2	
		生 涯 教 育 系 演 習 B	2	
		多 変 量 解 析 法	2	
		質 的 調 査 法	2	

表 2 高等学校専修公民

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	本学開講科目名	単位数	備 考
公民の教科に関する科目	24	人 間 科 学 特 論	2	24単位以上選択必修
		デ ー タ 分 析 法	2	
		心 理 学 的 測 定 法	2	
		社 会 学 系 特 論 A	2	
		社 会 学 系 特 論 B	2	
		社 会 学 系 特 論 C	2	
		心 理 学 系 特 論 A	2	
		心 理 学 系 特 論 B	2	
		生 涯 教 育 系 特 論	2	
		社 会 学 系 演 習 A	2	
		社 会 学 系 演 習 B	2	
		心 理 学 系 演 習 A	2	
		心 理 学 系 演 習 B	2	
		生 涯 教 育 系 演 習 A	2	
		生 涯 教 育 系 演 習 B	2	
		多 変 量 解 析 法	2	
		質 的 調 査 法	2	

宗教学専攻

人間学特論 A、B および特殊研究を除く修得単位をすべて認定する。

史学専攻

人間学特論 A、B および特殊研究を除く修得単位をすべて認定する。

国文学専攻

人間学特論 A、B、視聴覚芸術研究 I・II および特殊研究を除く修得単位をすべて認定する。

比較文化専攻

比較文化専攻開設科目のうち、下表の単位を中学校専修免許状英語および、高等学校専修免許状英語の単位として認定する。

中学校専修英語・高等学校専修英語

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	本学開講科目名	単位数	備 考
英語の教科に関する科目	24	比 較 文 化 特 論 B	2	24単位以上選択必修
		比 較 文 化 特 論 D	2	
		比 較 文 化 特 論 F	2	
		比 較 文 化 特 論 G	2	
		比 較 文 化 演 習 B	2	
		比 較 文 化 演 習 D	2	
		比 較 文 化 演 習 F	2	
		比 較 文 化 演 習 G	2	
		イ ギ リ ス 文 化 特 論	2	
		英 語 教 育 特 論 A	2	
		英 語 教 育 特 論 B	2	
		英語コミュニケーション特論	2	

大正大学大学院学則（抜粋）

第3章 履修方法

第8条 修士課程の修了要件は、修士課程に2年以上在学し、所定の授業科目について別表(1)に定める単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は研究成果報告書の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 修了の時期は、学年の終わりとする。ただし、大学が適当と認めた場合は、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を修了させることができる。
- 3 本学大学院学生で修士課程に4年以上在学し、なお未修了の者については、これを除籍する。ただし、退学の場合はこの限りでない。
- 4 前項による除籍は、学長が決定する。

第9条 学位論文は、指導教授を通じて、大学院研究科委員会（以下「当該研究科委員会」という。）に提出し、その審査並びに最終試験を受けなければならない。

- 2 提出の時期は、毎年12月15日までとし、その審査並びに最終試験は翌年2月末日までに行う。ただし、大学が適当と認めた場合、提出の時期は、毎年6月30日までとし、その審査並びに最終試験は7月末日までに行う。

第14条 博士課程の修了要件は、博士課程に5年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目について別表(1)(2)に定める単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

- 2 標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了した者、及び第8条第1項のただし書きの規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件は、修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上博士課程に在学し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
- 3 専門職学位課程を修了した者が博士後期課程に入学した場合は、博士後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者については、博士課程の3年から当該専門職学位課程の標準修業年限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

第15条 学位論文の提出は、博士後期課程に2年以上在学し、所定の単位数を修得見込みの者又は3年以上在学し、所定の授業科目12単位以上修得した者に限る。ただし、博士後期課程に在学し、優れた研究業績を上げた者として、当該研究科委員会で認めた場合は、この限りではない。

- 2 本学大学院学生が博士後期課程に6年以上在学し、未修了のときは、これを除籍する。ただし、退学の場合はこの限りでない。

第23条 修士の学位は、第8条第1項の規定により合格した者に、当該研究科委員会の議を経て、以下の学位を授与する。

研究科名	専攻名	修士課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	修士（仏教学）
人間学研究科	社会福祉学専攻	修士（社会福祉学）
	臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）
	人間科学専攻	修士（人間科学）
文学研究科	宗教学専攻	修士（文学）
	史学専攻	修士（文学）
	国文学専攻	修士（文学）
	比較文化専攻	修士（文学）

第24条 博士の学位は、第14条の規定により合格した者に、当該研究科委員会の議を経て、以下の学位を授与する。

研究科名	専攻名	博士後期課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	博士（仏教学）
人間学研究科	福祉・臨床心理学専攻	博士（人間学）
文学研究科	宗教学専攻	博士（文学）
	史学専攻	博士（文学）
	国文学専攻	博士（文学）
	比較文化専攻	博士（文学）

第25条 第14条の規定にかかわらず、博士の学位を請求する者については、博士後期課程を修了して学位を授与された者と同等以上の内容を有する論文を提出し、かつ専攻学術に関し、同様に広い学識と研究を指導する能力があると認められた場合に、博士の学位を授与することができる。

附 則

本学則は、昭和26年4月1日から施行する。

（省 略）

附 則

- 1 本学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成20年度以前の入学生の履修方法、修了要件については改正学則第8条、第14条、別表(1)・(2)などにかかわらず従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前の入学生の修了要件、学位請求論文提出の時期及び最終試験については改正学則第8条、第9条にかかわらず従前の例による。

（省 略）

附 則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

大正大学学位規則（抜粋）

第1節 総則

（目的）

第1条 この規則は、大正大学学則及び大正大学大学院学則の定めるところにより、大正大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関する必要事項を定めるものとする。

（学位）

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 本学の学位には、以下の専攻分野の名称を付記するものとする。

- (1) （省略）
- (2) 修士の学位に付記する専攻分野の名称

研究科名	専攻名	修士課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	修士（仏教学）
人間学研究科	社会福祉学専攻	修士（社会福祉学）
	臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）
	人間科学専攻	修士（人間科学）
文学研究科	宗教学専攻	修士（文学）
	史学専攻	修士（文学）
	国文学専攻	修士（文学）
	比較文化専攻	修士（文学）

- (3) 博士の学位に付記する専攻分野の名称

研究科名	専攻名	博士後期課程
		学位の名称
仏教学研究科	仏教学専攻	博士（仏教学）
人間学研究科	福祉・臨床心理学専攻	博士（人間学）
文学研究科	宗教学専攻	博士（文学）
	史学専攻	博士（文学）
	国文学専攻	博士（文学）
	比較文化専攻	博士（文学）

（学士の学位）

第3条 （省略）

（修士の学位）

第4条 修士の学位は、本学大学院学則第23条の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

（博士の学位）

第5条 博士の学位は、本学大学院学則第24条の定めるところにより、博士課程を修了した者に授与する。

2 博士の学位は、前項に規定するもののほか、本学大学院学則第25条により、当該研究科委員会が行う博士論文の審査に合格し、かつ本条第1項に該当する者と同等以上の学力を有することが確認された者に授与することができる。

（学位の名称）

第6条 本学で学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いる場合には、大正大学の本学名を学位に付記するものとする。

第1章 修士の学位

（学位請求論文の提出）

第7条 修士の学位請求論文は、指導教授を通じて、当該研究科委員会に提出し、その審査並びに最終試験を受けるものとする。

2 提出の時期は、毎年12月15日までとする。ただし、大学が適当と認めた場合、提出の時期は、毎年6月30日までとする。

3 修士の学位論文を提出する者は、別表第5による所定の審査料を、論文提出時までに入納するものとする。

（学位請求論文の審査）

第8条 修士の学位請求論文の審査は、当該研究科委員会において選定された審査委員によって行うものとする。

2 審査委員は、研究指導を担当する教授または准教授を主査とし、当該学位請求論文に関連する授業科目を担当する教授または准教授1名以上を副査とする。ただし、必要があるときは、専任講師を副査とすることができる。

（最終試験）

第9条 最終試験は、学位請求論文を中心として、これに関連のある授業科目につき、試問（筆答・口頭）の方法で行うものとする。

2 修士の学位請求論文の審査並びに最終試験は、翌年2月末日までとする。ただし、第7条第2項ただし書きの場合、審査並びに最終試験は7月末日までに行うものとする。

（審査の報告）

第10条 修士の学位請求論文の審査並びに最終試験の結果は、当該研究科委員会の議を経て、当該研究科長が学長に報告するものとする。

第2章 博士の学位

（学位請求資格）

第11条 第5条第1項により学位を請求する資格のある者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 本学大学院研究科博士後期課程3年次に在学している者。ただし、博士後期課程に在学し、優れた研究業績を上げた者として、当該研究科委員で認めた場合には、この限りではない。

(2) 博士課程単位取得満期退学した後、博士後期課程入学後6年以内に再入学をした者。

2 前項に規定するもののほか、第5条第2項に規定する者は、学位請求論文を提出することができる。

（学位請求論文の提出手続き）

第12条 前条第1項により学位を請求する者は、指導教授を通じて、学位請求論文審査申請書（所定用紙）を添えて当該研究科委員会に提出し、その審査並びに最終試験を受けるものとする。

2 学位請求論文の論題は5月10日までに提出し、学位請求論文の提出は、毎年10月20日までとする。

3 提出された学位請求論文及び学位請求論文要旨は、当該研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

4 本条第3項の承認を得られた者は、第15条に規定する本審査を受けるものとする。

5 前条第1項第2号による再入学を志願する者は、所定の再入学願を定められた期日までに提出しなければならない。

第13条 第11条第2項により、学位を請求しようとする者は、当該研究科の博士論文委員会において予備審査を受けるものとする。

2 予備審査申請は、随時受け付けることとし、提出書類は、下記のとおりとする。

(1) 予備審査申請書（所定用紙）〈教員審査用〉

(2) 学位請求論文（4部及びデジタルデータ）

(3) 学位請求論文要旨（所定用紙及びデジタルデータ）

(4) 同意書：提出論文に共同研究者がいる場合、共同研究者の同意書

(5) 推薦書：学外からの論文提出者は、学内の専任教授の推薦書

(6) その他：その他、予備審査に必要とされる書類等

3 予備審査は、年5回（4月・6月・10月・12月・2月）を定例とする。ただし、特に必要な場合は臨時に開催することができる。

4 博士論文委員会は、予備審査中に当該分野の内外の専門家の意見を聴することができる。

5 博士論文委員会は、予備審査中に学位を請求した者の試問をすることができる。

- 6 博士論文委員会は、予備審査に合格した者について、当該研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。
- 7 予備審査に合格した者は、承認を得た日から1か月以内に別表第1による所定の審査料を納入するものとする。

（博士論文審査委員会）

第14条 学位請求論文の審査は、当該研究科委員会の承認に基づいて発足する博士論文審査委員会によって行うものとする。

- 2 博士論文審査委員会は、原則として主査1名、副査2名とする。ただし、第5条第1項による論文審査には、論文審査委員の中に当該論文指導教員以外の審査員を加えるものとする。また、論文審査委員として外部の有識者を加えることができる。
- 3 主査は副査の意見を徴して、審査報告書を作成し、これを当該研究科委員会に提出して審査経過を報告するものとする。

（最終試験）

第15条 第5条第1項による最終試験は、学位請求論文を中心として、関連のある学問領域につき、試問（筆答・口頭）の方法で2月末日までに行うものとする。

- 2 審査に合格した学位請求論文は、3月に行われる当該研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

第16条 第5条第2項による最終試験は、学位請求論文を中心として、試問（筆答・口頭）の方法で行うものとする。

- 2 第5条第2項に該当する者で、博士の学位を請求する者については、外国語（英語）の試験を課するものとする。
- 3 学位請求論文についての審査及び試験又は試問は、当該学位請求論文を受理した日から、概ね1年以内に終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは、当該研究科委員会の議を経て、学長の承認により、その期間を延長することができる。

第17条 学位請求論文の提出者が本大学院の博士後期課程に所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した者であるときは、筆記試験・口頭試問を免除することができる。

（博士論文審査委員会の審査報告）

第18条 博士論文審査委員会は、学位請求論文の審査及び最終試験又は試問を終了したときは、その結果を速やかに文書をもって当該研究科委員会に報告するものとする。

（研究科委員会の審議・議決）

第19条 学位請求論文の審査を付託された当該研究科委員会は、博士論文審査委員会の報告に基づいて審議し、当該学位請求者の学位授与について適格性を有するか否かについて議決をするものとする。

- 2 前項の議決については、当該研究科委員会構成員の3分の2以上が出席し、出席者の同意を必要とする。

（研究科長の報告）

第20条 当該研究科委員会で、前条に規定する審議結果は、当該研究科長が学位請求論文に添えて学位請求者の氏名・学位請求論文の内容、その学位請求論文の審査結果の要旨、試問結果の要旨及びその成績を文書で、学長に報告するものとする。

（学位記の交付）

第21条 学長は、前条に規定する当該研究科委員会の報告に基づき、学位の授与を受ける適格性を有するとされた学位請求者に対し、学位記を交付するものとする。

- 2 第5条第1項による学位記の授与は、毎年3月とする。
- 3 第5条第2項による学位記の授与は、毎年6月・11月・3月の3回とする。
- 4 学位の授与を受ける適格性がないとされた学位請求者に対しては、その旨を通知する。
- 5 学位の様式は、別表第3及び第4のとおりとする。

（学位請求論文等の公表）

第22条 本大学において、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3か月以内に、当該学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第23条 博士の学位を授与された者は、その授与を受けた日から1年以内に、当該学位論文の全文を「大正大学審査論文」と明記して、公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前に既に公表しているときはこの限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、大学の承認を受けて、当該学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合におい

て、大学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

- 3 博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学の協力のもと、インターネットの利用により行うものとする。

（学位授与の報告）

第24条 本学は、この規則の定めるところにより博士の学位を授与したときには、当該学位を授与した日から3か月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

第3章 学位の取り消し、その他

（学位の取り消し）

第25条 学位の授与をされた者が、次の各号の一に該当するときは、当該研究科委員会の審議に基づき、学長はその授与した学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を報告するものとする。

- (1) 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき
- (2) 本学の名誉を汚す行為があったとき

2 前項の審議については、当該研究科委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の同意を必要とする。

（学位請求論文の保存）

第26条 この規則の定めるところにより、審査をし、学位を授与した学位請求論文の原本は、本学図書館において保存するものとする。

（学位記の再交付）

第27条 学位記は、やむを得ない特別の事由があると認められる場合のほかは再交付しない。

2 再交付を受けようとする者は、所定の手続きを経て学長に願い出るものとする。

（改廃）

第28条 この規程の改廃は、代議員会及び大学院委員会の議を経て、常務理事会が行う。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 第2条第2項第1号の定めにかかわらず、平成15年3月31日に在学している者（平成15年度及び16年度の編入学者を含む）の学士の学位に付記する専攻分野の名称は、旧規則第2条第2項第1号の定めによる。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

改正後の第11条第1項の規定にかかわらず、平成15年度以前に博士課程単位取得満期退学した者の学位請求資格は以下のとおりとする。

- (1) 博士課程単位取得満期退学後、3年以内に再入学した者。
- (2) 博士課程単位取得満期退学後、3年以内に大学院研究生としての手続きをした者。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成20年度以前の入学生の学位請求資格については、改正学則第11条第1項第1号にかかわらず従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前の入学生の学位請求論文提出の時期及び最終試験については、第7条第2項、第9条第2項にかかわらず従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第11条第1項の規定にかかわらず、平成22年度以前博士後期課程入学者の学位請求資格は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 本学大学院研究科博士後期課程3年次に在学している者。ただし、博士後期課程に在学し、優れた研究業績を上げた者として、当該研究科委員会で認めた場合には、この限りではない。
 - (2) 博士課程単位取得満期退学した後、博士後期課程入学後6年以内に再入学をした者。
 - (3) 博士課程単位取得満期退学した後、博士後期課程入学後6年以内に大学院研究生の手続をした者。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

別表第5

種 別		審査料	備 考
修	士	2万円	
課 程	博 士	5万円	
論文博士	専任教職員	20万円	
	本学非常勤講師	30万円	
	その他	50万円	

学位審査に係る不正行為に関する内規

（目的）

第1条 この内規は、学位審査に係る相談又は通報（以下「相談等」という。）の適正な処理の仕組みを定めることにより、学位審査に係る不正行為等の早期発見と是正を図り、もって学位審査の透明性・客観性を確保するための体制強化に資することを目的とする。

（窓口）

第2条 大学教職員等からの相談等を受け付ける窓口を総務部総務課に設置する。

（相談等の方法）

第3条 相談等の窓口の利用方法は、電話・電子メール・FAX・書面・面会とする。

（調査）

第4条 総務部長は、相談等を受け付けた後、速やかに相談等に関する事実関係について調査を実施し、その結果を学長室会議に報告する。大学は、必要に応じて、関連する部署のメンバーからなる調査委員会を設置することができる。

（是正措置）

第5条 調査の結果、本学教職員が不正行為に関与したことが明らかになった場合には、大学は速やかに是正措置及び再発防止措置を講じるものとする。

（処分）

第6条 調査の結果、不正行為が明らかになった場合には、大学は当該行為に関与した者に対し、就業規則に従って、処分を課することができる。

（管掌）

第7条 この内規の事務管掌は、総務部総務課が行う。

（改廃）

第8条 この内規の改廃は、大学院委員会の承認を経て行う。

附則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

大学院の人材養成並びに教育研究の目的に関する規程

第1条 この規程は、大学院設置基準第1条並びに大正大学大学院学則第4条第2項に基づき、大学院研究科並びに専攻の人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的について定める。

第2条 本大学院は、設置する研究科の高度な専門性を活かし、地域や社会に貢献できる指導的人材を養成する。

第3条 各研究科の人材養成に関する目的、並びにその他教育研究の目的は、次のとおりとする。

(1) 仏教学研究科

仏教学の研究は文献学的方法による思想史研究を基礎とし、歴史・文化・芸術等の人間生活の多様な事象をその内容としている。これらの基礎的知識を踏まえ、さらに学際的総合研究を推進する研究者の養成と、智慧と慈悲の精神を実践する仏教者としての専門職能人を育成し、広く人類の福祉の向上と文化の発展に寄与する人材を養成する。

(2) 人間学研究科

人間の内面を深く科学的に追求し、個人と社会、心と人間形成の関係を研究し、利他と慈悲の精神に裏打ちされた豊かな人間性と広い視野に基づく判断力を備え、理論と実践により人間社会に横たわる様々な課題を解決することができる人材を育成する。さらに、諸学術研究を総合的に捉える視点を養い、社会の様々な問題に対処する有効な枠組みを提供しうる論理的・実践的な研究を推進し、新たな福祉・心理・社会・教育の研究領域を開拓し、多面的視野に立った高度の分析力・理解力を備えた研究者及び高度職業人・実践的国際人を養成する。

(3) 文学研究科

人類の普遍的価値たる真善美の探求を基盤とし、精神文明の所産である哲学・宗教・歴史・文学・言語の諸文化についての広い専門的知識、問題発見・調査探求能力を高揚し、多様な社会的・文化的課題について深く研究を行い、利他と慈悲の精神に基づく高い専門的能力とこれを応用し実践する能力を育成する。更に、仏教を基盤にした世界的、先駆的研究成果を生み出せる人材を育成し、地域の歴史・文化に対する造形力の深い、地域振興の担い手を養成する。

第4条 大学院専攻の人材の養成に関する目的その他教育研究の目的は、次のとおりとする。

(1) 仏教学専攻

仏教における高度な専門知識と透徹した悟性に基づく智慧と慈悲の実践による人間理解を深める研究者と体験から導かれた仏教者の生き方を実践し、社会に貢献できる宗門後継者及び高度な専門職能人の養成。

(2) 社会福祉学専攻

対人援助能力を有したソーシャルケアサービスのコーディネータやスーパーバイザー及び運営・管理能力を持つ福祉機関・施設等の指導者の育成並びに福祉実践の理論化を目指す研究者の育成。

(3) 臨床心理学専攻

アセスメントや心理療法、カウンセリング技術の習得・実践に裏付けされた教育・研究を基盤とし、心の問題の解決、援助、あるいは予防に携わる高度な専門職業人の育成並びに現にそうした職業に従事している専門家の再教育。

(4) 人間科学専攻

人間は特定の社会・時代の中で、さまざまな集団・組織に参加しながら、それぞれの生涯を発達・形成していく社会的・心理的・生理的存在であるという視点にたち、現代社会で表面化しているさまざまな問題に対して新しい科学的・理論的かつ実証的な取り組みができる専門的人材の育成。

(5) 福祉・臨床心理学専攻

対人援助能力を有したソーシャルケアサービスのコーディネータやスーパーバイザー及び運営・管理能力を持つ福祉機関・施設等の指導者の育成並びに福祉実践の理論化を目指す研究者の育成並びに心の問題の解決、援助、あるいは予防に携わる高度な専門職業人の育成及び現にそうした職業に従事している専門家の再教育。

(6) 宗教学専攻

「人間とは何か」という問いを基盤に据えつつ、西洋哲学・宗教学・東洋哲学の研究を通し、現代世界と現代社会を深く理解しながら、今日の社会が抱える諸問題について社会に提言できる人材と研究者の育成。

(7) 史学専攻

史学方法・文献資料・考古資料を調査・分析し、仏教史学など特色ある歴史的観点から現代社会を批判的に理解する能力を育成し、文化財の調査・管理に当たる専門的人材の養成。

(8) 国文学専攻

仏教文学など特色を有する日本古典文学と近代文学の統合を企画し，創造的な高度な専門性と応用性を有した人材の養成並びに日本文化や日本語に対する高度の知識を付与する専門的人材の養成。

(9) 比較文化専攻

精神文明の所産である宗教・歴史・文学・言語の諸文化について，理論的かつ実証的な比較研究を行い，多面的視野に立った高度の分析力・理解力を備えた研究者及び実践的国際人の養成。

第5条 この規程の改廃は，大学院委員会の議を経て，学長が行う。

附 則

この規程は，平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成26年11月26日から施行する。

附 則

この規程は，平成27年4月1日から施行する。

課程博士論文提出奨励のための学費等特例措置に係る規程

（目的）

第1条 この規程は、大正大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第16条及び大正大学学位規則第12条に定めるところにより、大正大学大学院博士後期課程に在籍する者及び単位取得満期退学した者に対して、課程博士論文提出を奨励するために、学費等の特例措置について定めることを目的とする。

（資格）

第2条 この規程は、大正大学大学院博士後期課程の所定単位の既取得者のうち、次の各号に該当する者に適用する。

- (1) 博士後期課程入学後6年未満の者
- (2) 博士後期課程の在籍期間が通算4年目以降の者

（学費等）

第3条 ここでいう学費等は、大学院学則別表（4）註5に定めるところにより、入学金、授業料、施設設備費とし、別表のとおりとする。

2 単位取得満期退学した者で、課程博士論文提出のために再入学を希望する者の入学検定料は免除する。

（出願・選考）

第4条 この規程の適用を希望する者は、指導教授及び当該大学院専攻長の推薦を得て、指定期日までに所定の書類を提出しなければならない。

2 前項による適用は、年度ごとに大学院委員会で選考のうえ、学長がこれを決定する。

（履修の制限）

第5条 この規程の適用を受けた者は、在籍期間中に課程博士論文指導科目以外の授業科目を履修登録することはできない。

（休学）

第6条 この規程の適用を受けた者は、休学することはできない。

（退学）

第7条 この規程の適用を受けたにもかかわらず、博士後期課程入学後6年以内に課程博士論文を提出できなかった者及び審査に合格しなかった者は、当該年度末付で単位取得満期退学とする。

（規程の主管）

第8条 この規程に関する事務は、財務部及び教務部が共同で主管する。

（改廃）

第9条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て、常務理事会が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行し、同年度博士後期課程入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

各専攻の論文審査基準

本学では、学位論文の審査基準を次のとおり定めています。

仏教学研究科

仏教学専攻

博士前期課程

- ① 研究対象と研究目的が明確であること
- ② 研究目的に応じた適切な研究方法が採用されていること
- ③ 研究史料の収集が適切であり、分析や考察が適切であること
- ④ 先行研究を精査し、的確に検討していること
- ⑤ 論理と叙述に整合性と一貫性を有し、形式や表記が適切であること
- ⑥ 新しい知見や独自の観点があり、学術的に高い価値を有すること

博士後期課程

＜博士・甲種＞

- ① 研究対象と研究目的が明確であること
- ② 研究目的に応じた適切な研究方法が採用されていること
- ③ 研究史料が適切であり、分析や考察が適切であること
- ④ 先行研究を的確に検討していること
- ⑤ 論理と叙述に整合性と一貫性を有し、形式や表記が適切であること
- ⑥ 客観性と独創性を有し、当該分野に大いに寄与する内容であること
- ⑦ 将来に渡って継続的に発展可能な研究内容であること

＜博士・乙種＞

- ① 研究対象と研究目的が明確であること
- ② 研究目的に応じた適切な研究方法が採用されていること
- ③ 研究史料の収集が適切であり、分析や考察が適切であること
- ④ 先行研究を精査し、的確に検討していること
- ⑤ 論理と叙述に整合性と一貫性を有し、形式や表記が適切であること
- ⑥ 高い学術的価値を有し、当該分野に大いに寄与する内容であること

人間学研究科

社会福祉学専攻

修士課程

- ① 問題意識が社会福祉学との関連性において独自性をもって明快に示されていること
- ② 社会福祉関連領域の先行研究が適切になされていること
- ③ 適切な研究方法と正確な分析で論述されていること
- ④ 自身の研究の意義、成果、課題についての的確に説明できること
- ⑤ 研究の所在から始まり、求める結論に至るまで説得力をもって論理的に記述されていること
- ⑥ 研究上の倫理に適切な配慮がなされていること

臨床心理学専攻

修士課程

- ① 独自性のある問題意識が心理臨床との関連性において明快に示されていること
- ② 関連領域の先行研究が適切に渉猟されていること
- ③ 適切な方法論と正確な論理で展開されていること
- ④ 自身の研究の意義、成果、課題についての的確に説明できること
- ⑤ 研究上の倫理に適切な配慮がなされていること

人間科学専攻

修士課程

- ① 研究テーマが現代社会における、社会、心理あるいは教育的課題であるだけでなく、学際的視点をもつものであること
- ② 先行研究は当該関連分野について適切に渉猟されていること
- ③ 研究方法是科学的に妥当かつ適切な手法が用いられていること
- ④ 結論は論理的に導出されており、独創性があること
- ⑤ 得られた知見は、専門家が問題解決するに当たって有益であり、社会の発展に貢献することができるものであること

福祉・臨床心理学専攻

博士後期課程

＜博士：甲種および乙種＞

- ① 社会福祉・心理臨床・人間科学の発展に資する人間理解の視点と適切な方法論が示されていること
- ② 関連領域の先行研究が適切に渉猟されていること
- ③ 問題設定または方法論は論理的で整合性があり、かつ学術的な独創性を有していること
- ④ 得られた知見は、専門家が問題解決するにあたって有益で有り、社会の発展に貢献することができること
- ⑤ 研究倫理について十分に理解し、それを遵守していること

文学研究科

宗教学専攻

博士前期課程

- ① 論文の目的が明確で、その目的に沿った最善の研究方法が採られていること
- ② 研究テーマに関わる先行研究が網羅的かつ体系的にレビューされていること
- ③ 研究テーマに関わる議論に通暁し、その学術的な更新に寄与していること
- ④ 論文あるいはその一部が学会の査読付き機関誌に掲載可能なレベルに達していること

博士後期課程

- ① 論文の目的が明確で、その目的に沿った最善の研究方法が採られていること
- ② 研究テーマに関わる先行研究が網羅的かつ体系的にレビューされていること
- ③ 研究テーマに関わる議論に通暁し、その学術的な更新に寄与していること
- ④ これまでの業績が学会の査読付き機関誌に論文として掲載されていること
- ⑤ 論文あるいはその一部が学術論文として公刊されるレベルに達していること

史学専攻

博士前期課程

- ① 研究対象と研究目的が明確であること
- ② 研究目的に応じた適切な研究方法が用いられていること
- ③ 研究史（資）料の収集が適切であり、分析と考察が的確であること
- ④ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、学術的に価値を有すること
- ⑤ 修士論文が当該分野の研究に寄与する内容であること

博士後期課程

＜博士・甲種＞

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究史（資）料の収集が適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、当該領域の学会で認められた研究論文を発表していること
- ④ 学位請求論文が当該分野の研究に寄与する内容であるとともに、請求者の研究者としての資質が十分に認められ、その将来が期待されること

＜博士・乙種＞

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究史（資）料の収集が適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、当該領域の学会で評価された研究論文および著書等を公刊していること
- ④ 学位請求論文が当該分野の研究に大いに寄与する内容であるとともに、請求者の研究者としての資質が十分に認められること

国文学専攻

博士前期課程

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究資料の調査と収集とが適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、学術的に価値を有すること
- ④ 修士論文が当該分野の研究に寄与する内容であること

博士後期課程

<博士・甲種>

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究資料の調査と収集とが適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、当該領域の学会で認められた研究論文を発表していること
- ④ 学位請求論文が当該分野の研究に大いに寄与する内容であるとともに、請求者の研究者としての資質が十分に認められること

<博士・乙種>

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究資料の調査と収集とが適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 新しい知見と独自の観点からの結論があり、当該領域の学会で認められた研究論文を発表していること
- ④ 学位請求論文が当該分野の研究に大いに寄与する内容であるとともに、請求者の研究者としての資質が十分に認められること

比較文化専攻

博士前期課程

- ① 「比較文化」という概念を理解し、研究対象に対し、客観的な観点を持っていること
- ② 外国語の文献を含め、研究に必要な基礎的資料を自由に扱うことができていること
- ③ 広い視野と柔軟な思考が論文に反映されていること
- ④ 自分の意見・見解について、論文ならびに口述試験で主張できること
- ⑤ 修士論文が当該分野の研究に寄与する内容であること

博士後期課程

<博士・甲種>

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究資料の収集が適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 「比較文化」という観点からみて、独自の／新しい知見があること
- ④ 海外の研究者とも交流できる言語能力を有していること
- ⑤ 可能であれば、学術発表を3回以上行い、学術論文を2編以上執筆していること

<博士・乙種>

- ① 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること
- ② 研究資料の収集が適切であり、分析と考察が的確であること
- ③ 「比較文化」という観点からみて、独自の／新しい知見があること
- ④ 海外の研究者とも交流できる言語能力を有していること
- ⑤ 「比較文化」の観点に立ち、該当する学問領域において、論文・著書ならびに学術研究発表などを通して、学位に相応する「社会的評価」を受けていること
- ⑥ 専門分野とする分野において、後進に対する指導力を有していること

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。

時代が移り変わってどんな社会状況となっても本学設立の精神は、永久に不動のものであると確信しています。

ここに初代学長の建学の言葉の抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乘仏教的精神を力強く發揮せられねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであつてほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一步も屈せざる勇氣が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気学内の漂つて居つて、來つて此学園に学ぶ者を薰化し感孚するものがあればと存じます。近世世界の文明国を通して自我の覚醒を見んとするは貴ぶべきことでありますが、自己個人の小なる權利、それは仏祖が極力呵責し給ひし、我慾我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪惡を懺悔すると共に、本來具する仏性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を讚美する優しい心と惡に近づかない猛き氣を持ちたいと存じます。かかる願望を一步一步満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて

初代学長 澤柳 政太郎